

令和4年度

会誌

第28号

宮崎県特別支援教育研究連合

はじめに

日頃より、会員の皆様におかれましては、本研究連合の活動に熱心にお取り組みいただき誠にありがとうございます。

去る令和4年7月29日に、本連合の研究大会を久しぶりに再開いたしました。これまで、研究大会の在り方を見直していましたが、今回、コロナ禍ということもあり、大幅にオンライン方式を取り入れ、新たな形での再スタートとなりました。そして、「新しい時代の生きる力をはぐくむみやざきの特別支援教育」というテーマの下、午前には香川大学の坂井聡先生を講師にお招きしての講演、午後は障がい種別部会の分科会という内容でした。開催後の反応としては、多くの会員の方から概ね良好だったという感想をいただきました。

研究大会を開催するに当たりまして、共催いただいた県教育委員会、児湯・西都地区の各市町村教育委員会の皆様に感謝申し上げますとともに、実行委員長を務められた児湯るびなす支援学校の山尾典子校長先生をはじめ大会事務局の先生方、児湯・西都エリア部会の実行委員の皆様方、そのほか御尽力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

さて、全国で、改定された学習指導要領が順次実施されており、特別支援学校においては、今年度から高等部で年次進行での実施とされています。学習指導要領においては、御承知のように、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学びの実現」など、これからの時代に向けた様々な視点が取り入れられています。

また、令和3年1月には、中央教育審議会より「令和の日本型学校教育」に関する答申があり、9月には特別支援学校設置基準が示されています。さらに、今年3月には「特別支援教育を担う教師の養成の在り方等に関する検討会議報告」もなされています。本県でも、「県立特別支援学校整備指針」が示され、次の時代を予感させる動きが見られています。

さらに、我が国の特別支援教育に対して、障害者権利条約に基づく勧告として厳しい指摘がなされるということも大きな出来事でした。また、文部科学省が10年に1度行われる調査において、小中学校の通常学級で特別な支援を要する児童生徒の割合が、8.8%であったとする結果も公表されています。

これらの新たな動きに呼応して、各地域でも今後ますますインクルーシブ教育システムの構築、そして共生社会の実現に向けた流れが引き続き進むものと期待しております。本研究連合としては、アフターコロナの時代に向けて、新しい研究活動の形を皆様とともに探り続けていければと思います。

今年度も、本研究連合及び各部会の事務局の先生方には、多大なる御尽力をいただきありがとうございました。今後の本研究連合のますますの発展を祈念する次第です。

令和5年3月

宮崎県特別支援教育研究連合 会長 酒井 裕市
(みやざき中央支援学校長)

目次

はじめに

県特研連のあゆみ

I 宮崎県特別支援教育研究連合組織

令和4年度研究組織図

II 事業方針及び研究計画の概要

令和3年度収支決算報告

令和4年度事業の概要

III 宮崎県特別支援教育研究連合研究大会報告

IV 各障がい種別教育研究部会活動報告

視覚障がい教育研究部会

聴覚障がい教育研究部会

知的障がい教育研究部会

肢体不自由教育研究部会

病弱教育研究部会

情緒障がい教育研究部会

難聴・言語障がい教育研究部会

V 各エリア部会活動報告

宮崎・東諸県エリア部会

日南・串間エリア部会

西都・児湯エリア部会

都城・北諸県エリア部会

小林・西諸県エリア部会

日向・東臼杵エリア部会

延岡・西臼杵エリア部会

VI 令和4年度 全国大会報告

全日本盲学校教育研究大会（第97回富山大会）

全日本聾教育研究大会（第56回愛知大会）

全日本特別支援教育研究連盟全国大会（第61回秋田大会）

全国肢体不自由教育研究協議会（第68回兵庫大会）

全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（第63回山口大会）

全国情緒障害教育研究協議会（第54回沖縄大会）・九州地区情緒障害教育研究大会（第50回沖縄大会）

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（第51回北海道大会）

Ⅶ 令和4年度 九州地区研究大会報告

九州地区盲学校教育研究会（沖縄大会）

九州地区聴覚障害教育研究大会（第27回福岡大会）

九州地区特別支援教育研究連盟研究大会（第56回沖縄大会）

九州地区肢体不自由教育研究大会（第59回大分大会）

九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（第62回鹿児島大会）

九州地区難聴・言語障害研究大会（第46回鹿児島大会）

Ⅷ 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

宮崎県小・中学校特別支援教育研究会

宮崎県特別支援学校教育研究会

Ⅸ 規約・細則

おわりに

宮崎県特別支援教育研究連合のあゆみ

「宮崎県特殊教育研究連盟設立趣意書」

※注) 「宮崎県特殊教育研究連盟」は本連合：
宮崎県特別支援教育研究連合の旧名称

盲教育に端を発した本県の特殊教育は、国における制度的な整備とともに、施設、設備の面においても、また教育内容・方法等においても年々充実が見られ、障がいのある児童生徒の可能な限りの社会参加を目指した教育が推進されているところであります。この間の関係者の献身的な取り組みに対し心から感謝申し上げます。

しかしながら、近年、児童生徒の障がいの重度重複化・多様化傾向や障がいを取り巻く環境の変化に伴う保護者の意識の高まり等が見られ、これまで以上に多くの課題が見られるようになっております。中でも、個に応じた教育課程の編成・実施、後期中等教育の充実、適正就学、進路指導の充実等に係わる課題は喫緊の課題としてその具体的な対応を迫られているところであります。

このような状況の中、小・中学校において特殊教育に携わっている教師や盲・聾・養護学校の教師の間から、一堂に会して課題解決を図ることが効果的であり、そのために共通の場を設置することが必要であるとの声が聞かれるようになってまいりました。しかし、こうした思いは度々話題となりながらも、その実現は機が熟するところまでにはいならず今日まで持ち越されてきたところであります。

幸い、平成7年1月「盲・聾・養護学校教育研究会」が設立されたのを機に、連盟発足の機運が高まり、ここに「宮崎県特殊教育研究連盟」が発足する運びとなった次第であります。38年という輝かしい歴史をもつ「宮崎県特殊教育研究会」と専門的な機関の持つ機能が相互にその特性を生かしていくことにより、これまで以上に多様かつ深い課題解決が推進され特殊教育の振興・発展が期待できるものと確信いたします。

本連盟は、こうした経緯の中、多くの関係者の願いをもとに設立されたものであり、その具体的な目的、活動等は規約に示すとおりであります。特に次のようなねらいをもって組織されたものであります。

- 一、研究活動を通して重度重複化・多様化した児童生徒の指導のあり方を探るとともに個々の教師の資質向上を図る。
- 一、それぞれの立場から現状認識をもとに将来をも含めた特殊教育の課題とその解決策を探り、特殊教育のより一層の充実を図る。
- 一、地域における教育活動を推進し特殊教育の更なる活性化を図る。

全国的にあまり例を見ない試みであるだけに、この組織を生かし育てていくには多くの困難も予想されます。会員一同、本会発展のために努力していく所存ではありますが、教育委員会をはじめ各関係機関には本連盟の趣旨をご理解いただき、本会が意義のある組織として発展しますよう各段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

(平成7年2月：設立総会にて)

設立時の主旨は、今も変わることなく我々の進むべき道を照らしてくれています。そして特殊教育から特別支援教育への移行に対応した組織とするために数カ年の検討期間を経て、平成16年度に組織改編、平成17年度に名称変更、平成18年度に研究大会をブロック部会によるローテーション開催で行うこと(平成20年度より開始)について取り決め、先輩方が築かれた財産を伝承していきながら、新しい時代に対応した組織となるよう本連合は進んでいきます。

(平成18年度 加筆)

共生社会の形成に向けた特別支援教育の取組が進展していく中で、成立時の主旨は大きな意味を持ち続けています。本連合は、設立から四半世紀が過ぎました。会運営の中で出てきた課題改善のため、令和2年度に本連合システムの検討を進めました。

令和3年度から、「ブロック部会」を「エリア部会」に移行します。「エリア部会」は、宮崎県のエリアサポート体制を踏まえ、組織改編を行います。

また、令和4年度からさらに特別支援教育の専門性を重視した研究大会を実施していきます(隔年開催)。運営をエリア部会(事務局校は知的障がい支援学校)が担当します。研究大会担当エリアの事務局校をメイン会場として、「障がい種別部会」ごとに設けた会場からオンラインで大会に参加できるようにするとともに、各「障がい種別部会」が計画する研修を分科会の内容として行っていきます。インクルーシブ教育システムを構築し、自立と社会参加を見据えた連続性のある多様な学びの場をさらに充実していくために、宮崎県特別支援教育研究連合は今後も前進していきます。

(令和3年度 加筆)

表：宮崎県特別支援教育研究連合（宮崎県特殊教育研究連盟）のこれまで

期 日	場 所	会 議 名	内 容
6年 6月27日	宮崎県庁	宮崎県公立小・中特殊教育設置校長、並びに県立盲・ろう・養護学校長代表者会	役員選出
6年 8月12日	宮崎県庁	第1回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	基本方針
6年 9月22日	宮崎県庁	第2回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	組 織
6年10月29日	清武養護学校	第3回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年11月19日	清武養護学校	第4回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年12月12日	附属小学校	第5回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 1月28日	附属小学校	第6回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 2月18日	清武養護学校	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会準備会	役員等
7年 2月28日	宮崎市中央公民館	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会	発足承認
16年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成16年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	組織改編承認
17年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成17年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	名称変更承認
20年 8月 7日	宮崎市佐土原総合文化センター	第12回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 宮崎ブロック部会大会	研究大会のブロック部会によるローテーション開催開始
令和3年6月	新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面議決にて開催	令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合第1回理事会及び代議員会（総会）	組織改編（ブロック名称変更）承認

I 宮崎県特別支援教育研究連合組織

県特研連について

宮崎県特別支援教育研究連合
(略称: 県特研連)

小・中学校特別支援研究会
(略称: 小中特研)

+

特別支援学校教育研究会
(略称: 特支研)

県特研連とは

宮崎県の特別支援教育を推進するための研究団体

・規約 第二章 目的

特別支援学校と特別支援学級並びに通級指導教室（以下「特別支援学級等」という）を設置する小学校・中学校相互の連携を緊密にするとともに、特別支援教育に関する実践研究・調査及び特別支援教育の充実・振興を図ることを目的とする。

県特研連は2つの部会で構成されています

エリア部会

・地域の特別支援教育について研究を行う。

障がい種別部会

・障がい種別の教育研究を行う。

主な活動

- ① 各部会ごとの研修会等
- ② 研究大会（県全体 2年に1回）

令和4年度 第24回 宮崎県特別支援教育研究連合研究大会

1 大会主題

新しい時代の生きる力をはぐくむ みやざきの特別支援教育
～一人一人の教育的ニーズに応え、持てる力を高める特別支援教育の充実～

2 期日 令和4年7月29日(金)

3 内容

- 【午前の部: 全体会】 9:30～12:10 講演 オンライン・ウェビナー
○【演題】「次への意欲につなげるために」
○【講師】 坂井 聡 氏
香川大学教育学部 教授(香川大学教育学部附属坂出小学校・附属幼稚園 校長)

【午後の部: 分科会】 障がい別研究会ごとに分科会 実施方法は各会ごとに検討

県特研連大会 主題 (2022年から10年間の大会主題)

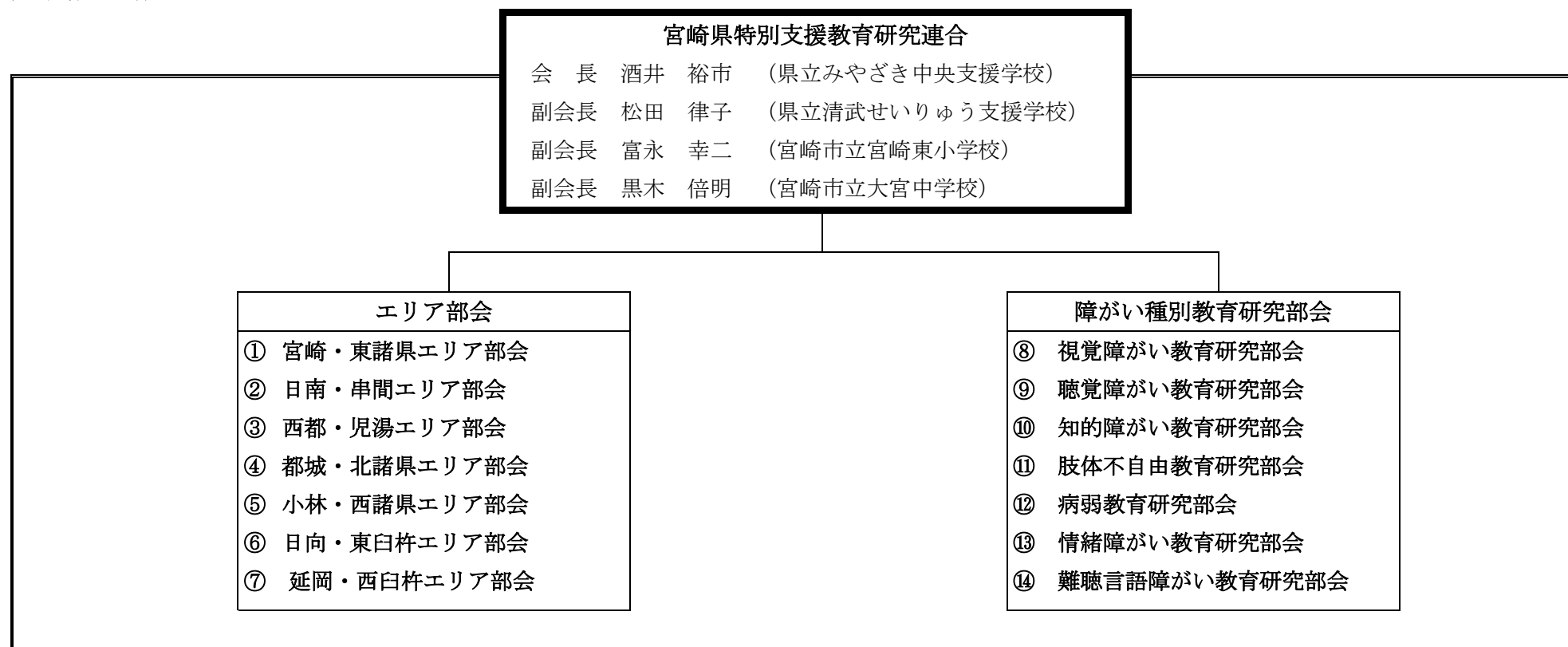
新しい時代の生きる力をはぐくむ みやざきの特別支援教育

主題設定の理由

- ① 時代背景 → 新しい時代
- ② 特別支援教育の時代背景 → インクルーシブ教育システム
- ③ 学習指導要領(文部科学省)「生きる力 学びの、その先へ」
…目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現
- ④ みやざき特別支援教育推進プラン(宮崎県教育委員会・平成30年度)
具体的な施策
「子ども一人一人の学びのニーズに応じた質の高い教育支援システムの構築」

令和4年度 研究組織

(1) 組織の全体



* 組織について

本連合は、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会（小・中特研）と宮崎県特別支援学校教育研究会の連合体である。連合体であることにより県教委公認の研究団体として認められ、研修出張や共催・後援等が可能になる。

【参考】

ア 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会

事務局：宮崎大学教育学部附属小学校、宮崎市立小戸小学校
各地区：①宮崎地区 ②東諸県地区 ③日南地区 ④串間地区 ⑤都北地区 ⑥西諸県地区 ⑦西都地区 ⑧東児湯地区 ⑨日向地区 ⑩延岡地区 ⑪西臼杵地区

イ 宮崎県特別支援学校教育研究会

事務局：みやざき中央支援学校
各部会：①教務主任部会 ②生徒指導主事部会 ③保健主事・養護教諭部会 ④進路指導主事部会 ⑤栄養教諭・学校栄養職員部会 ⑥美術科代表者部会 ⑦音楽科代表者部会 ⑧保健体育科代表者部会 ⑨家庭科代表者部会 ⑩自立活動代表者部会 ⑪情報教育代表者部会

(2)

宮崎県特別支援教育研究連合

エリア部会

宮崎・東諸県
エリア

日南・串間
エリア

西都・児湯
エリア

都城・北諸県
エリア

小林・西諸県
エリア

日向・東臼杵
エリア

延岡・西臼杵
エリア

九州

全国

視覚障がい 教育研究部会	特別支援学級 (小)							特別支援学級 (中)		九州地区盲学校 教育研究会	全日本盲学校 教育研究会
	明星視覚支援 学校										
聴覚障がい 教育研究部会								都城さくら 聴覚支援学校		九州地区聴覚障害 教育研究部会	全日本聾教育研究会
知的障がい 教育研究部会	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	九州地区特別支援 教育研究会	全日本特別支援 教育研究連盟
	みやざき中央 支援学校 みなみのかぜ 支援学校	日南くろしお 支援学校	児湯るびなす 支援学校	都城きりしま 支援学校	小林こすもす 支援学校	日向ひまわり 支援学校	延岡しろやま 支援学校・高 千穂校				
肢体不自由 教育研究部会		特別支援学級 (中)			特別支援学級 (小)			特別支援学級 (小)	特別支援学級 (小)	九州地区肢体不自由 教育研究会	全日本肢体不自由 教育研究会
	清武せいりゆ う支援学校								延岡しろやま 支援学校・高 千穂校		
病弱教育 研究部会	赤江まつばら 支援学校								特別支援学級 (小)	九州地区病弱虚弱 教育研究連盟	全国病弱虚弱 教育研究連盟
情緒障がい 教育研究部会	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	特別支援学級 (小)(中)	九州地区情緒障害 教育研究会	全国情緒障害 教育研究会
難聴・言語 障がい教育 研究部会	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	特別支援学級 (小) 通級指導教室	九州地区難聴・言 語障害教育研究会	全国公立学校 難聴・言語障害教育 研究協議会

(3) 関係機関との連携について

○関係機関（九州・全国等の組織）との連携を図る（障がい種別教育研究部会）

宮崎県特別支援教育研究連合 障がい種別教育研究部会	九州地区各障害種別研究会	全国各障害種別研究会
視覚障がい教育研究部会	九州地区盲学校教育研究会	全日本盲学校教育研究会
聴覚障がい教育研究部会	九州地区聴覚障害教育研究会	全日本聾教育研究会
知的障がい教育研究部会	九州地区特別支援教育研究連盟	全日本特別支援教育研究連盟
肢体不自由教育研究部会	九州地区肢体不自由教育研究会	全国肢体不自由教育研究会
病弱教育研究部会	九州地区病弱虚弱教育研究連盟	全国病弱虚弱教育研究連盟
情緒障がい教育研究部会	九州地区情緒障害教育研究会	全国情緒障害教育研究会
難聴・言語障がい教育研究部会	九州地区難聴・言語教育研究会	全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

図2：障がい種別教育研究部会と関係機関との連携

Ⅱ 事業方針及び研究計画の概要

令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合収支決算書

1 収入

科目	予算額	決算額	増減	備考
会費	714,000	745,900	31,900	特別支援学校 1学級 800円×423学級 小・中学校特別支援学級 1学級 500円×815学級
前年度繰越金	732,983	732,983	0	
繰入金	100,000	100,000	0	県特研連積立金廃止の為
雑収入	5	8	3	貯金利息
合計	1,546,988	1,578,891	31,903	

2 支出

科目	予算額	決算額	増減	備考
研究大会運営費	200,000	200,000	0	令和4年度研究大会準備金として
各部会補助金	700,000	700,000	0	50,000円×14部会
通信費	25,000	17,800	7,200	文書等送料
消耗品費	50,000	42,475	7,525	用紙、インク、事務用品、教職員録他
予備費	121,988	880	121,108	大会運営費振込手数料他
合計	1,546,988	961,155	135,833	

3 収支決算

収入 (1,578,891円) - 支出 (961,155円) = 617,736円

差引残高 617,736円は次年度へ繰り越します。

預金通帳、会計簿、領収書等の照合の結果、収支ともに適正に処理されていることを認めます。

令和4年 3月 24日

監査 宮崎市立大宮小学校

校長 岩切 康 郎

令和4年 3月 24日

監査 宮崎県立児島南小学校

校長 山尾 典子

令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合積立金収支決算書

1 収入

科目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	100,000	100,000	0	
繰入金	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
合計	100,000	100,000	0	

2 支出

科目	予算額	決算額	増減	備考
繰出金	100,000	100,000	0	県特研連一般会計に戻入
予備費	0	0	0	
合計	100,000	100,000	0	

3 収支決算

収入（100,000円）－ 支出（100,000円）＝ 0円

県特研連積立金は今年度で廃止とします。

預金通帳、会計簿、領収書等の照合の結果、収支ともに適正に処理されていることを認めます。

令和4年 3月 24日

監査

宮崎市立大宮小学校
校長 若切 康郎

令和4年 3月 24日

監査

宮崎県立児湯弘川河支援学校
校長 山尾 典子

宮崎県特別支援教育研究連合

令和4年度 基本方針及び活動内容

1 インクルーシブ教育の充実に向けた、社会に開かれた教育課程の実践教育

7つの「エリア部会」と7つの「障がい種別教育研究部会」の活動を充実させていく。

2 新体制による研究大会の開催

組織全体の協力のもと、研究大会を成功させる。

3 情報交換の活性化

(1) ホームページによる研究の報告、情報共有

(2) 事務局連絡会の充実による情報交換と連携の強化

(3) 会誌の編集・発行（ホームページによる情報提供）
情報提供を主とし、1年間の活動の成果を記したものになるようにする。

(4) 九州及び全国組織の情報収集

4 関係団体との連携

事業連携など

- ・「宮崎県（行政機関）」→研究団体として報告
- ・「県障がい者スポーツ大会」への後援・役員派遣（県障がい福祉課、県障がい者スポーツ協会）
- ・「宮崎県手をつなぐ育成会」→ケエバン・鉛筆等の事業への後援
- ・「九州地区および全国の各障がい種別研究会等」への参加→該当の各校で対応
- ・「宮崎県教育公務員弘済会」→教育研究団体助成金（平成19年度より）

5 研究大会の準備

(1) 令和5年度 研究大会 準備
今年度大会の成果、課題をもとに大会の企画を進めていく。

(2) 令和6年度 第25回 宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 開催
県立延岡しろやま支援学校が主管校となる。

Ⅲ 宮崎県特別支援教育研究連合 研究大会報告

第 2 4 回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の生きる力をはぐくむ みやぎきの特別支援教育
～一人一人の教育的ニーズに応え、持てる力を高める特別支援教育の充実～」
- (2) 期日 令和4年7月29日(金)
- (3) 場所 宮崎県立児湯るびなす支援学校(ホスト)からのZoomによるオンライン研修

2 内容

- (1) 講演「次への意欲につなげるために」 香川大学教授 坂井聡氏
- (2) 障がい種別分科会

分科会及び担当校		内容
視覚	明星視覚支援学校	講演 「白杖歩行の指導の実際」 さざなみの会 歩行訓練士 清水達士氏
聴覚	延岡しろやま支援学校(聴覚部門)	講演 「聴覚障害児のセルフアドボカシー」 岡山県早島クリニック医師 発達支援・放課後デイサービスキッズファースト 福島邦博氏 協議 「子ども達に身に付けさせたい力」
知的	都城きりしま支援学校	研究発表 「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」 パネルディスカッション 「進路実現にむけての歩み～学齢期から就職まで、そしてその後に向けて～」
肢体	清武せいりゅう支援学校	講演 「肢体不自由教育における自立活動の指導の改善について」 元文部科学省特別支援教育調査官 下山直人氏
病弱	赤江まつばら支援学校	講演 「筋ジストロフィー児童生徒の支援」 国立病院機構 宮崎東病院 脳神経内科医 鈴木あい氏
情緒	宮崎南小学校	講演 「特別な配慮を要する子どもの指導の在り方 ～特別支援学級と通常の学級の連携～」 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター 井上秀和氏
難聴・言語	宮崎小学校	講演 「難聴・言語障がい教育における子ども理解や子どもとの関わり、子どもを支える教室運営の在り方」 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 牧野泰美氏

3 報告

午前中の講演については、申し込み人数が838名、後日配信のオンデマンド視聴が再生約400回と、大変多くの方に聴いていただくことができた。

講演してくださった香川大学教授、坂井聡氏は、実践に基づいた内容を熱く、楽しくテンポ良く話してくださり、まだこの道を歩き始めたばかりの方も、経験を積んでこられたベテランの方も聴きやすいものであったと思う。目の前の児童・生徒が障がいをもっているのではなく、私たち教員が障がいとなつてはいないかという大きな問いかけもあり、自身の実践を改めて振り返る良い機会になった方も多数いたのではないだろうか。

午後については分科会として、障がい種別部会担当が企画、運営を行った。終日参加する方々も多く、盛況であったようだ。

課題としては以下のものがあげられる。

○ 案内文書等の整理

大会の在り方が大きく変わったことで、案内文書でもその旨が伝わるようにしたつもりであったが、配布後、沢山問い合わせがあった。また、午後の分科会とは案内、申し込みを別にしたが、時期がまちまちであったためか、午後の分の問い合わせについても午前中の担当である児湯るびなす支援学校にあった。今年度の実施を受けて、参加者が全体的なイメージを持つことはできたと思うが、次回は2年後であるので、再度詳細な案内、わかりやすい案内は必要だと感じる。また、午後と申し込みを別に行ったが、大会担当が一手に担ったほうがいいのか、検討が必要である。

○ オンライン研修のデメリット

情報機器に関して、主管校の学校職員が主に準備・当日運営を行ったが、知的部会については業者に委託している。予算にも収まるようなので、外部委託できるところは依頼していく方法もあると思われる。当日の機器の不具合等が生じた場合にも、対応していただくことが期待される。

○ アンケートの方法

アンケートについては、QRコードを読み込んで回答する方法であったが、回答が参加人数の半数以下となった。自身の携帯電話やメールアドレスを使用することへの抵抗も多くあったようだ。集約のしやすさを第一に考えてこの方法をとったが、従来のように紙媒体で回答できるものも併せて準備しておく等よりよい方法について検討できると良い。

○ 県立学校／小・中学校との連絡

県立学校間ではミライムを用いての連絡が活発に行われた。しかし、県立学校と、小・中学校とは電話、FAX、代表メール、郵送という手段を用いた。電話連絡では、休憩時間が異なることもあって連絡が取りづらかった。また、代表メールではタイムラグがあることへの懸念、校務支援システムC4thについては県下の小・中学校すべてで活用されているわけではないとのことで、今回はより確実なFAXでのやりとりが主となった。今後、データのやりとり含め、スムーズに安全に行える手段があれば、準備段階での連絡調整含め、担当エリア全体で取り組みやすいものになると思う。

○ 大勢の方々が学べる機会

本大会では、講師の坂井氏による、広く、大きな視野での特別支援教育についてお話いただいた。

現在特別支援教育を担当している方だけでなく、教育に関わる方に聴いていただきたい内容であった。今回は、教材・教具展について実施しなかったが、こちらをあわせて形を変えて行うことで様々な立場の方の目に触れ、学ぶ、知る、やってみようという意欲をもてる機会になるかもしれない。校長会等での周知など、高等学校職員含め、児童・生徒に携わる方が学べる良い機会となると思う。

4 最後に

初めての試みということで、準備も予定通りに進まず、また内容の伝達も十分でなく、反省ばかりの大会となってしまった。ただ、オンラインでのメリットも大きく感じる事ができた。参加者が参加しやすく、また運営側の負担が軽減されるような大会となると良いと思う。御協力いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

IV 特別支援教育研究連合 各研究部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

視覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「未来につなげる明星教育～授業力・指導力向上を目指して～」

2 主な研究・活動の内容

事業内容	事業計画の概要			
	年 月 日	場 所	実 施 内 容	
研 究 会 及 び 研 修 会 その他	R 4. 4月～6月	明星視覚支援学校	○基本研修（歩行、点字、眼疾患、弱視教育、進路、情報機器等）	
	R 4. 4. 27（水）	明星視覚支援学校	○第1回視覚障がい教育研究部会代議員会 ○第1回合同研修会	
	R 4. 4. 29（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展	
	R 4. 6月	都城市 明星視覚支援学校	○都城サテライト ○課題研究開始	
	R 4. 7月29日（金）	明星視覚支援学校	○県特研連研究大会大会 ○視覚障がい教育研究部会研修会 （県特研連研究大会分科会として開催） ○第2回合同研修会（教材教具研修会）	
	R 4. 8月	延岡市 明星視覚支援学校	○あいあい教室（延岡市） ○全日盲研富山大会参加（リモート）	
	R 4. 10. 15（土）	明星視覚支援学校	○視覚障がい福祉機器展	
	R 4. 10. 21（金）	明星視覚支援学校	○あいあい教室	
	R 4. 11月	都城市 明星視覚支援学校	○都城サテライト ○授業参観週間 （宮崎・東諸県エリア部会授業公開日を含む）	
	R 4. 11. 18（金）	沖縄	○九盲研沖縄大会参加（リモート）	
	R 4. 12. 3～23	宮崎・東諸県エリア	○宮崎・東諸県エリア研修会（オンデマンド）	
	R 4. 1月	栃木	○日弱研栃木大会参加（予定）	
	R 5. 2. 2（木）	明星視覚支援学校	○第2回視覚障がい教育研究部会代議員会 ○第3回合同研修会	
	R 5. 3. 17（金）	明星視覚支援学校	○視覚障がい教育研究報告会	
	その他	○ しろやまサテライト（延岡しろやま支援学校） 5～3月 月1回実施 ○ 宮大サテライト（宮崎大学医学部附属病院） 4～3月 月1回実施		
	その他	○ 広島大学の ICT 研究の協力校となっている。 ○ 本校は次年度九盲研（宮崎大会）の主管校を務めるため、今年度半ばより大会準備会を立ち上げ、次年度の大会実行委員会へとつながる業務を実施する。		

- (1) 合同研修会「意見交換会」
本部会の代議員会の後、特別支援教育コーディネーターも参加し、本部会員の中学校と意見交換会を実施した。
- (2) 視覚障がい教育研究部会研修会（県特研連研究大会分科会として開催）
県内に2名しかいない歩行訓練士のうちのお一人、清水達士氏を講師に迎え、歩行訓練の総論から具体的かつ実践的な各論まで教示いただいた。
- (3) 教材教具展示会

3 主な研究成果

本部会は、大王谷学園中等部含め会員校は2校のみである。今年度本校が主管となったエリア部会研修会を、視覚障がい教育について発信する機会としてとらえ Web 開催することができた。

聴覚障がい教育研究部会

1 研究主題

「本県における聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

期日	活動概要	会場
6月29日	総会 第1回運営委員会	都城さくら聴覚 (リモート)
7月29日	聴覚障がい教育部会研修会	延岡しろやま (リモート)
10月4日 ～5日	第27回 九州地区聴覚障害教育研究大会福岡大会	福岡県立福岡高等聴 覚特別支援学校他
10月6日 ～7日	第56回 全日本聾教育研究大会愛知大会	愛知県立千種聾学校 他
2月	第2回運営委員会	都城さくら聴覚 (リモート)

(2) 聴覚部会研修会について

ア 講演会 テーマ「聴覚障害児のセルフアドボカシー」

講師 岡山県早島クリニック医師

発達支援・放課後ディサービス キッズファースト 福島邦博氏

イ 協議 「子ども達に身に付けさせたい力」

3 主な研究成果

- 昨年度より聴覚障がい教育部会としての運営が始まり、本年度から本格的に活動に取り掛かることができた。事務局と研修担当を都城さくらと延岡しろやま（ととろ部門）で分担して運営を行った。また、一昨年まで所属していた難聴・言語部会とも互いに案内を送付し、部分的にはあるが、互いの会に参加することができた。
- 福島氏の講演会では、聴覚障がい児に対するセルフアドボカシーについての理解を深めると共に、各段階における到達目標や具体的な指導例について知ることができた。その後の協議では、提示された到達目標をもとに作成したチェックリストを活用し、学部・学年別のグループで意見交換を行った。短い時間ではあったが、2校の課題や指導の難しさを共有したり、取組について意見交換したりすることができた。
- 聴覚部会の運営については、計画のスケジュールリングや効率的かつ確実な運営のために改善を要する部分がある。今年度の反省を生かしながら、本会が宮崎県の聴覚障がい教育の専門性の継承、発展の一助となるよう、会の運営を工夫していきたい。

知的障がい教育研究部会

1 活動

「知的障がい教育研究部会の研究大会について」

2 主な活動の内容

(1) 年間活動報告

期 日	会議内容及び活動概要	会 場
6月24日	第1回理事会及び総会（オンライン）	各学校
7月29日	第12回知的部会研究大会（分科会）「都城大会」	都城きりしま支援学校
11月28日	第2回理事会（オンライン）	各学校
2月 3日	第3回理事会予定（オンライン）	各学校

(2) 全国大会、九州大会等への参加及び協力

- 全日本特別支援教育研究連盟全国大会「秋田大会」令和4年11月11日
全体会は参加者を制限して会場開催、分科会は誌上開催。
- 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「沖縄大会」令和4年11月10・11日
オンラインによる参加

提案発表者

- ◇第5分科会 自立活動「主体的に困難の改善・克服に取り組む自立活動」
提案発表者 日向市立平岩小中学校 教諭 加塩 祐子
- ◇第6分科会 交流及び共同学習「心のバリアフリーのための交流及び共同学習」
提案発表者 県立みやざき中央支援学校 教諭 山口 弘高
司 会 者 県立みやざき中央支援学校 教諭 山本 由紀
助 言 者 宮崎県教育庁特別支援教育課 指導主事 戸敷 こずえ

(3) 知的障がい教育研究部会研究大会（分科会）の開催

- 第12回宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会研究大会「都城大会」
令和4年7月29日、8月2日から8月末までオンデマンド配信
研究大会運営実行委員長 県立都城きりしま支援学校 校長 種子田 保
研究大会事務局長 県立都城きりしま支援学校 教諭 壹岐 俊介
研究大会主題 「特別な支援を必要とする児童生徒の進路実現に向けて」
講演 演 題「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」
発表者 都城きりしま支援学校 教諭 永吉 健太
パネルディスカッション
「進路実現に向けての歩み
～学齢期から就職まで、そしてその後に向けて～」

3 主な活動の成果

今年度は県特研連の研究大会を午前中に、午後からは各障がい種別の研究大会を分科会として併催という形での実施となった。今年度は都城きりしま支援学校が計画を進め、オンライン、オンデマンドで「特別支援学校高等部職業コース設置に向けた取組」をテーマに、都城きりしま支援学校の永吉先生が発表をされた。さらにその後、卒業生とその保護者、当時の進路担当職員、相談支援事業所、そして卒業生の働く企業の方を交えたパネルディスカッションを行い、県内の多くの小中支援学校がその様子を視聴した。アンケートでは、「卒業生の声を聞くことができたのは大きかった」など大変好評だった。

昨今の現状から今後もオンライン、オンデマンドでの大会が主流となりつつある。今年度の大会の反省を行い、よりよい大会の実施に向けて、次年度担当校へと引き継がれた。次年度担当校は日南くろしお支援学校である。

肢体不自由教育研究部会

1 研究主題

「学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実をめざして」

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

本部会は、清武せいりゅう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）で組織され、肢体不自由教育を推進し、会員の資質の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するために、研究大会の開催や肢体不自由教育に関する調査研究等を行っている。

① 活動報告

期日	肢体不自由教育研究部会事業	その他の関連事業
4月		
5月		九肢研（大分大会）役員会及び総会 ＜文書審議＞20日（金）～31日（火）
6月	第1回肢体不自由教育研究部会 理事会・ 代議委員会 ＜オンライン会議＞9日（木）	
7月	第24回肢体不自由教育研究大会＜オンラ イン開催＞ 第2回肢体不自由教育研究大会理事会・代議 委員会 ＜オンライン会議＞29日 （金）	第24回宮崎県特別支援教育研究協議 会研究大会 ＜オンライン開催＞ 29日（金）
8月		
9月		
10月		第59回九州地区肢体不自由教育研究 大会（大分大会）＜オンライン開催＞ 14日（金）～11月30日（水）
11月		第68回全国肢体不自由教育研究協議 会（兵庫大会）17日（木）
12月		
1月	第3回肢体不自由教育部会 理事会・代議 委員会 13日（金） ＜場所 清武せい りゅう支援学校＞部会誌第27号発行	
2月		
3月		

② 第24回肢体不自由教育研究大会

本年度は、宮崎県特別支援教育研究協議会が新体制となり、初めて研究大会が開催されることとなった。午前の部では、第24回宮崎県特別支援教育研究協議会研究大会の全体会、午後の部で各分科会が行われ、本研究会の研究大会は、肢体不自由教育分科会として実施された。コロナ禍への対応として、本大会はオンラインでの開催とし、参加者は各学校からのオンライン参加をした。

今大会では、事前のアンケート調査の結果で、肢体不自由教育の場での自立活動について研修したいとの声が多かったため、元文部科学省調査官の下山直人氏を講師として迎え、「肢体不自

由教育における自立活動の指導の改善について」という演題で講演をしていただいた。清武せいらゆう支援学校職員71名、延岡しろやま支援学校わかあゆ部門職員23名、他の県内特別支援学校職員36名、公立小学校職員7名の計137名が各会場から参加し、肢体不自由教育における自立活動について理解を深めた。講演では、具体的な事例等も交えながら、自立活動をどのように計画し、教育活動の中でどう位置づけ、実践していくかをわかりやすくお話ししていただいた。公演後のアンケートでは、「丁寧でわかりやすく、大変勉強になった。」、「指導すべき課題を明確にすることがいかに重要か学ぶことができた。」等の感想が寄せられた。

3 主な研究成果

本年度は、3回の理事会・代議員会を開き、第24回肢体不自由教育研究大会を開催し、1月に部会誌第27号を発行した。清武せいらゆう支援学校と延岡しろやま支援学校（肢体不自由教育部門）の両校の抱える課題や疑問点について研究大会や部会誌の発行をとおして研修を深めるとともに情報の共有を行った。さらに令和5年度の研究大会に向けて内容を検討し、講師の選定や演題の設定等、準備を進めている。

また、助成金を活用して講演会の実施や書籍、教材・教具の購入等を行い、職員の専門性を向上させることにより、資質向上を図り、日々の教育の充実に努めた。

令和4年度 病弱教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

ICT を効果的に活用した教育実践～自立と社会参加を目指して～

2 活動内容

(1) 年間活動報告

期 日	事 業 内 容
5月上旬	病弱教育研究部会理事会・総会
5月～9月	ICT を効果的に活用した教育実践を行うための理論研修・実技研修
7月29日	病弱教育研究部会 夏期研修会
8月17・18日	九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 鹿児島大会（オンライン）
8月中	全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 山口大会（オンデマンド配信）
9月～12月	ICT を効果的に活用した教育実践の実際
1月31日	研修報告会（実践報告集作成）
2月中旬	病弱研究部会理事会

(2) 病弱教育研究部会夏期研修会（宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として開催）

講演「筋ジストロフィーの児童生徒の支援」

－学習面・生活面・心のケア－

講師 国立病院機構 宮崎東病院 脳神経内科医

鈴木 あい氏

3 主な研究の成果

(1) 成果

病弱のある子供たちは医療的な配慮を要するため、活動に制約のあることが多い。また、様々な要因から学校への登校意欲が低下したり、人とのコミュニケーションに苦手意識を抱いたりすることもある。そのため、ICT を効果的に活用した教育実践を進めることは、児童生徒の自立と社会参加を目指すための一助になると考えた。本年度の研究では、まず、病弱教育における ICT 活用についての理論研修として、独立行政法人教職員支援機構の校内研修シリーズを活用したり、これまでの ICT 活用や先進校の実践事例の共有、実践研修を行ったりした。また、外部講師を招聘してメディア利用に伴う影響等について考える機会を設けた。

夏期研修会は、宮崎県特別支援教育研究連合研究大会分科会として、県内の小中学校の先生方にも聴講いただけるものとした。筋ジストロフィーの児童生徒の支援について医師という立場からとても丁寧な分かりやすい講演であり、他の病弱のある子供たちの支援や将来について考えていく中でもとても参考になった。これらの研修での学びを基に幅広い教育実践を行うことができ、実りのある研究を行うことができた。

(2) 課題

病弱教育における ICT 活用は子供たちの学びを深めていくためにとても重要となる。また ICT は社会とつながるツールとなっていくことが期待される。ICT は今後も進化していくことが予想されるが、指導に取り組む教師の技量等に温度差もあり、今後も病弱のある子供達の病状の理解を深めていきながら、継続的な ICT 活用についての実践を行っていく必要がある。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
事務局拠点校 連絡会（引継）	4月13日（水）	宮崎南小学校	・ 事務局校の業務確認 ・ 年間事業計画検討
第1回事務局会	5月16日（月）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 年間事業計画検討
第2回事務局会 第1回理事会	6月16日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 総会決議（紙面決裁） ・ 年間事業計画検討
第1回研究部会	7月14日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ R5九情研実践発表に向けて 発表資料検討
情緒障がい教育 分科会	7月29日（金）	オンライン研修会 （ホスト宮崎南小）	・ 総会報告 ・ 講演、事例研修
第2回研究部会	9月2日（金）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ R5九情研実践発表に向けて 発表資料検討
第3回事務局会	10月14日（金）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 今後の事業計画等について ・ 事務局拠点校設置について
第3回研究部会	11月25日（金）	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表に向けて 授業研究会 発表資料検討
第4回研究部会	1月17日（火）	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表に向けて 授業研究会 発表資料検討
第2回理事会	2月16日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ（次年度の引継ぎ等）
第4回事務局会	3月10日（木）	オンライン会議 （ホスト宮崎南小）	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について

3 主な研究成果

本年度より、事務局拠点校を宮崎南小に設置し、円滑な部会運営を図った。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、活動の規模を最小限にして運営を行った。また、Zoomを使用したオンライン会議等を積極的に行った。

(1) 成果

今年度の夏季研修は、「令和4年度第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会」の午後の部に「情緒障がい教育」分科会として、研修会を開催した。国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生の講演「特別な配慮を要する子どもの指導の在り方～特別支援学級と通常の学級の連携～」において、インクルーシブ教育システム等に関する動向、学校における指導や支援と二次的な障害等、先行研究と豊富な資料の提供、事例研修などから学ぶことができ、大変好評であった。

また、令和5年度開催予定の第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の授業研究会や研究実践の支援として年間4回の研究部会を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。さらに、通常の学級に在籍する児童生徒の中にも、通級による指導を必要としている割合が高くなっている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員も求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

令和4年度 難聴・言語障がい教育研究部会 活動報告

1 研究主題

「子どもや保護者の多岐にわたる教育的ニーズに応える支援・指導の在り方
～ 人と関わる力を高める支援を通して ～」

2 活動内容

期日	活動の概要
5月27日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県難言研総会、専門部会（引継ぎ） ・ 九難言鹿児島大会発表について ・ 専門部会（今年度の計画）、全体会
6月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「構音指導の実際」講師：山下優子氏 ・ 専門部会、全体会 ・ グループ協議「指導上の課題について」
7月29日(金)	<p style="text-align: center;">令和4年度 宮崎県特別支援教育研究連合研究会 難聴・言語障がい教育研究部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演「難聴・言語障がい教育における子ども理解や子どもとの関わり、子どもを支える教室経営の在り方」講師：牧野泰美氏（国立特別支援教育総合研究所）
8月3日(水) 4日(木)	<p style="text-align: center;">第46回九州地区難聴・言語障害教育研究会 鹿児島大会 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため中止 誌上発表</p>
10月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「初心のいっぽ、もういっぽー心を育てる構音指導ー」 講師：西田立郎氏（元埼玉県白岡市篠津小学校教諭 言語聴覚士） ・ 全難言埼玉大会発表検討会 ・ 九難言長崎大会発表検討会 ・ 専門部会、全体会
12月8日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「構音指導の実際」講師：山下優子氏 ・ 全難言埼玉大会発表検討会 ・ 九難言長崎大会発表検討会 ・ 専門部会、全体会、グループ協議
2月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「心を育てる構音指導」講師：西田立郎氏 ・ 九難言長崎大会発表検討会 ・ 活動総括と次年度に向けての協議 ・ 専門部会 ・ 九難言沖縄大会発表について ・ 実践事例集製本

3 主な研究成果

(1) 成果

本年度は、第1回研修会が新型コロナ感染防止のため、専門部ごとのサテライト式オンラインでの研修となった。その後の部会は対面で計画的に開催することができた。本年度は、講義を4回実施し、基本的な構音指導について具体的に学んだ。日頃の悩みや疑問を解決できるとともに、実践に生かすことができる実り多い内容となった。

本年度予定されていた第46回九州大会難聴・言語障害教育研究会鹿児島大会は中止となったものの、その大会で発表する宮崎県代表者の研究内容を確認し、全体で研修を深めることができた。また、来年度以降の研究会での発表検討会も重ねることができた。

(2) 課題

ことば・きこえの教室、難聴学級での指導は、基本となる手立てや専門的な技術を習得した上で、一人一人の児童の実態に合わせて進める必要がある。本年度は、講義を実施することで、改めて手立てや教材・教具について確認し、実践する機会となった。これからも、講義や担当同士の情報交換を通して、個別に対応のできる専門性の向上に結びつく研修内容を計画し、実施していきたい。

V 特別支援教育研究連合 各エリア部会

「この研究は公益財団法人日本教育公務員弘済会
宮崎支部からの助成金を受けて行っています」

宮崎・東諸県エリア部会

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

(1) 組織 ～ 宮崎地区特別支援教育研究会と東諸県地区特別支援教育研究会、宮崎市内の特別支援学校5校（明星視覚支援、赤江まつばら、みやざき中央、みなみのかぜ、清武せいりゅう）

(2) 活動内容

期 日	事業名	活動の内容	会 場
7月5日（火）	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第1回役員会	・令和3年度の活動報告 ・令和4年度の計画・予算検討	各学校 （ZOOMによるオンライン開催）
10月3日（月）	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会 第2回役員会	・研修会の細案検討等	各学校 （ZOOMによるオンライン開催）
11月25日（金） *12月2日から 12月23日までの オンデマンド配信 に変更	◆県特研連宮崎・東諸県エリア部会第1回研修会	・宮崎市学校教育研究会との合同研修会	県立明星視覚支援学校 （オンデマンド配信に変更）
2月予定	◆県特研連宮崎エリア部会 第3回役員会	・年間計画反省、事業・会計報告作成確認 ・次年度役員・役割分担等確認、事業計画案作成 *（宮崎市特別支援教育研究部会第3回理事会後に実施）	大宮中学校予定

3 成果と課題

本年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の影響のために、なかなか思うような活動ができなかった。役員会はZOOMによるオンライン開催、活動の中心となる研修会もオンデマンド配信となった。

役員会では、昨年度から新しい役員組織と役割分担のローテーションが始まったので、その確認を行い、規約等の確認、変更を行った。

本年度の研修会は、急遽オンデマンド配信になった。参加者の都合の良い日時で視聴でき、参加予定ではなかった方々も視聴できるという点では良かった。しかし、宮崎市内の小中学校では、制限がかかっており、そのままでは視聴できなかつたり、アンケートに答えられなかつたりする状況があった。事前の確認が必要だった。次年度の研修会は、南部②小学校が担当校になる。

日南・串間エリア部会

1 研究主題

特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対応するための専門的指導力の向上と小・中学校等における特別支援教育の充実

2 活動内容

期 日	活 動 内 容	場 所
5月10日	○ 第1回日南・串間エリア部会役員会 ・ 総会、研修会について ・ 昨年度事業報告 ・ 今年度事業計画及び予算案について	有明 小学校
6月27日	○ 第2回日南・串間エリア部会役員会 ・ 令和4年度日南・串間エリア部会について ・ 主な事業内容について ・ 今年度の日南・串間エリア部会総会について	南郷 小学校
7月26日	○ 令和4年度日南・串間エリア部会総会、研修会 ・ 日南・串間エリア部会総会 ・ 研修会（講演会）※ ZOOMによる研修 演題 「自立活動の授業づくりについて」 講師 都城市立西小学校 石本 隆士 指導教諭	有明小 学校及び各 学校
7月～3月	特別支援教育研修として動画視聴 演題 改めて「発達障がい」とは何か考える 講師 本田 秀夫 氏	各学校
11月10日	○ 第3回日南・串間エリア部会役員会 ・ 研修会アンケート結果について ・ 教材購入について ・ 研修費の受領	日南くろ しお支援 学校
2月16日	○ 第4回日南・串間エリア部会役員会 ・ 活動内容、会誌、会計報告 ・ 令和5年度日南・串間エリア部会の活動について	有明 小学校

3 本エリア部会の成果と課題

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会及び研修会はZOOMでの開催にした。研修会では、都城市立西小学校の石本先生による「自立活動の授業づくりについて」の講演を行い、好評を得た。また、本田秀夫氏による『改めて「発達障がい」とは何か考える』の動画を各学校で視聴し研修を行った。日々の授業については、これまでに作成してきた教材活用集を活用しながら授業づくりや生活指導に役立てることができた。

課題としては、実際の授業を見たいという意見が多くあがった。授業づくりに悩む会員が多いことから、次年度は項目ごとに分けてLIVEによる授業研修が行えるようにしていきたい。

西都・児湯エリア部会

1 研究主題

「一人一人の教育的ニーズに応え、持てる力を高める特別支援教育の充実」

2 活動内容

(1) 活動内容

- 役員会（年2回）運営及び会計業務
- 令和4年度宮崎県特別支援教育研究連合研究大会（西都・児湯エリア部会研究会）
計画、検討、準備

(2) 活動計画

月	日	会議及び活動内容	県特研連関係
3	29	・事務局引継ぎ	
4	下旬	・第1回役員会の内容検討	・第1回理事会及び代議員会（総会）
5	30		
5	26	第1回役員会 ・令和4年度役員の確認 ・令和3年度事業報告、収支決算報告 ・部会会則及び部会の運営に関する確認 ・令和4年度事業計画、収支予算案審議 ・令和4年度研究大会に関する検討	
7	6	・接続テスト	
7	29	・西都・児湯エリア部会研究大会(研究大会兼)	・第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 講演「次への意欲につなげるために」香川大学 坂井聡氏
9		・アンケート集計及び課題の検討	
12	下旬	・令和4年度収支決算・会計監査	
1	24		・第2回事務局会
2	9	第2回役員会 ・令和4年度事業報告、収支決算報告審議 ・令和5年度事業計画案、収支予算案審議 ・西都・児湯エリア部会の運営に関する検討 ・令和5年度役員の確認 ・令和4年度宮崎県特別支援教育研究連合研究大会課題まとめ	
2	21		・第3回事務局会及び事務局連絡会

3 エリア部会の成果と課題

3年ぶりの開催となった、研究大会全体会の企画・運営等が主な業務となった。

西都・児湯エリア部会は、研究大会への参加を研究大会と兼ねる形で行った。

まず、成果である。

参加人数であるが、当日申し込み人数が800名を超え、後日オンデマンド配信分の視聴者（再生回数）が約400回であった。

そのうち、西都・児湯エリア部会の参加人数が当日110名であった。オンデマンド配信分については地域の特定ができないが、後日視聴した旨も聴いており、当日参加できなかった方が視聴したことがわかる。遠方であったり、当日参加ができない方々が研修の機会を得られるというのは、オンライン開催の大きな成果であると言える。

次に課題である。

まずは、準備について、チームで進めて行くことが難しかった点である。

昨年度実行委員会としてエリアの各市町村代表と会議を実施したが、準備が予定通りに進まずに意見交換のみで終わった。今年度についても各市町村代表をあげていただいたが、参集して作業する機会がもちづらかったため、必要に応じて作業を割り振る形をとった。会場参集型の企画・運営と異なり、事務作業が主になったため、情報関係、会計関係含め、ほぼ事務局校〔児湯るびなす支援学校〕で準備を進めることとなった。

案内配布についても、小・中学校の校務支援システムC4thを活用する予定であったが、学校によっては行き渡っていない、活用できていない状況があるとのことだったため、確実に情報が渡るよう本校から手作業で行った。

アンケートの内容検討及び作成については、エリアの代表の方々に準備していただくことができた。

県立学校ではミライムを活用してデータのやり取りが可能であるが、小・中学校とは電話、FAX、代表メールを通してのやりとりが主になる。その点が改善されれば、準備段階からエリアの役員や実行委員の方々と協力しながら作業を進められると思う。

二点目はオンラインだからこその、機器トラブル等への対応である。

今後、研究大会も形を変え、オンラインで行う機会も増えていくと思う。来年度についても、状況によってはオンラインでの実施となるかも知れない。今回は一部音声の聴き取りづらさや、動画の共有場面でスムーズにいかないことがあったが、当日急なアクシデントは予想しがたいものがある。一部部会では専門業者に依頼していたが、予算面で不都合がなければ、機器関係については業者委託するのも良いと思われる。

三点目、これまで行われていた教材展等ができなかったことである。

小・中学校からのニーズとして、教材や教具の紹介が望まれていた。今回の研究大会では会場を設けないこともあって実施しなかった。オンライン開催の際の実施の在り方については、検討が必要だと思われる。

研究大会だけに限らず、役員会等の会議もあり方が変わっていく中ではあるが、そのメリットを大きく活用しながら、今の時代だからこそできるあり方を模索し、設定できていくと良い。課題について次年度にしっかり引き継いで、西都・児湯エリア部会が充実していくようにしたいと思う。

都北エリア部会

1 研究主題（テーマ）

「小中学校における実態に応じた指導はどうあればよいか」

2 活動報告

（1）年間活動報告

月	日	会の内容	場所
5		○ 支援学級の調査（事務局）	都城市立山之口小学校
6	17（金）	○ 事務局・役員会 ① 令和4年度総会資料（紙上開催）について ② 各地区役員引き継ぎ ③ 事業計画 ・夏季研修会	都城市立小松原中学校
8	22（月）	○ 役員会	都城市立小松原中学校
11	18（金）	○ 授業事前研究	都城市立山之口小学校
	30（水）	○ 授業研究会 ○ 実践報告集の製本・発行	
1	19（木） ～	○ 合同作品展前日準備	ウェルネス交流プラザ 茶霧茶霧ギャラリー
	23（月）	○ 合同作品展・作品撤去	
2		○ 第2回理事会・事務局会 ・年間活動の反省及び次年度に向けての協議	都城市立小松原中学校

3 主な研究成果と課題

（1）成果

- 一昨年からのコロナ禍の影響があったが、感染拡大に気を付けながら市町合同の研究会を開催できた。
- 授業研究会を開催にあたり、夏休みの検討会や事前研修会を行い、先生方の意見をいただき授業改善を行うことができた。
- 授業研究会後の協議では、小・中学校と障がい種別に分かれて、生活単元や自立活動などの学習の進め方などについて意見交換を行うことができた。
- さまざまな会を開くにあたり、人を集めての開催が難しかったが、少人数での事前打ち合わせなどをして、会を実施することができた。
- 開催に当たり、それぞれの先生方が責任を持って仕事をしてくださり、連携して仕事を行うことができた。

（2）課題

- コロナ禍のタイミングもあり、夏季研修を実施できなかった。
- さまざまな児童、生徒の困り感に対して、情報交換ができ、指導や対応の仕方などに関する講演会や研修会をしなくてはいけないと感じた。
- 最初の総会が開催できず、細かな打ち合わせなどを部会ごとにしておくと、1年間の見通しや引継ぎなどがうまくできたと思う。来年度は、感染状況を見ながら、また万全の感染対策を講じて、対面での引継ぎを実施したい。

小林・西諸県エリア部会

1 研究主題

「児童・生徒の実態に即した効果的な指導はどうあればよいか」

2 活動内容

期日（曜日）	事業内容	場 所
4月21日（金） 中止 総会資料送付	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回研修会（総会） <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画案及び予算案審議 ・ 役員選出（西諸特研役員・運動会実行委員） ○ 合同運動会打ち合わせ ○ 引継ぎ 	小林中央公民館
6月6日（月）	○ 合同運動会前日準備 → 中止	小林市立体育館
6月7日（火）	○ 合同運動会 → 中止	小林市立体育館
7月8日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回役員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画確認 ・ 第1回役員会 	永久津小学校
9月20日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回役員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育講演会の役割分担、準備 	永久津小学校
12月19日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2回研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育講演会 	小林中央公民館
1月12日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回役員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回研修会の役割分担、準備 	永久津小学校
2月6日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会（全体⇒分科会） 	小林中央公民館
3月3日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第4回役員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度反省並びに次年度計画案検討 	永久津小学校

3 本ブロック会の成果と課題

(1) 成果

- 12月19日（月）に、教育講演会を行った。講師には、小林市立病院小児科の中田雅之先生にお願いした。演題は、「きれいな子どもたち」とし、何らかの障がいを抱えている子どもや発達障がいと診断された子どもたちにどう対応していけばいいのかが、具多的な例を出しながら分かりやすく話をしていただいた。また、特別支援担当の先生方から事前にとったアンケートにも時間が許す限り丁寧に答えていただいた。質疑応答では、数人の先生方から質問や相談事などが出され、とても有意義な時間となった。

(2) 課題

- 子どもたちが楽しみにしていた合同運動会も、コロナ感染防止のために中止となった。合同運動会は、目的である交流と親睦を深めるための活動であるが、他校との友だちとの交流を3回も中止にしているため、今後どのような形で実施していけばいいのかが課題である。コロナ感染防止のために合同運動会の中止が続くのであれば、運動会の在り方を工夫したりそれに代わる新しい行事を考える必要がある。できれば、ICTを活用した交流や行事ができるような催しが実施できればいいと思う。

日向・東臼杵エリア部会

1 研究主題（テーマ） 「教育的ニーズに応える特別支援教育の推進」

2 活動内容

(1) 組織

日向・東臼杵地区（日向、門川、入郷）小・中学校の学校長及び特別支援学級職員の会員
日向ひまわり支援学校長及び職員

(2) 年間活動報告

期日	事業名	活動の内容	会場（方法）
7月29日（金）	県特研連研究大会（併催） （エリア部会合同研修①）	午前の部：講演 午後の部：障害種別分科会	オンデマンド 配信視聴
8月19日（金）	総会・代議員会	令和3年度事業報告 令和3年度決算報告・監査報告 令和4年度事業計画案 令和4年度予算案 県特研連組織、エリア部会規約他	オンライン実施 日向ひまわり （ホスト）
9月30日（金） から配信	エリア部会合同研修②	「学級経営エトセトラ」 主に教育課程に関することや授業 の実際、教材教具などを紹介	教育研修センター インターネットe-研修 配信
1月13日（金）	エリア部会合同研修③	「スキルUP！」 全国の研究公開や研修、資料や文 献の紹介等	電子メール 校務支援システム
1月27日（金） ） 2月3日（金）	なかよしアート展 （エリア部会共催事業）	日向地区特別支援教育研究会 日向・東臼杵エリア部会 合同作品展（共催事業として実施）	日向市 中央公民館
3月	第2回代議員会	令和4年度事業報告 令和4年度決算報告 本年度の反省及び次年度活動計画	オンライン実施 日向ひまわり （ホスト）

3 本エリア部会の成果と課題

昨年度末のエリア会員向けのアンケート結果を活かし、会員の専門性の向上とエリア各校の特別支援教育の推進を図るため、基本的な内容に焦点化した動画の配信及び学べる機会と情報を提供する資料配布を行った。

オンラインでの代議員会（役員会）開催、「教育研修センターインターネットでe-研修」での動画配信、県立学校と小中学校を結ぶ電子メールとエリア小中学校を繋ぐ校務支援システム等、整備された環境を活用することでアフターコロナにおける研修内容や方法を工夫しながら活動を行うことができた。

延岡・西臼杵エリア部会

1 研究主題（テーマ）

児童生徒の生きる力を育む指導の在り方
～教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について～

2 活動内容

本年度も延岡地区と西臼杵地区内の特別支援学校と小中学校の連携を緊密にするとともに、特別支援教育に関する実践研究・調査研究及び特別支援教育の充実・振興を図ることを目的として、以下の活動に取り組んだ。

期 日	事 業 名	主な内容
6月 6日（月）	第1回事務局会	・令和3年度の事業報告、決算報告 ・令和4年度活動方針・事業計画、予算案について ・総会、夏季研修会について
7月29日（金）	宮崎県特別支援教育 研究連合研究大会 （大会併催）	・総会については、総会議案を各学校に配布し、 FAX返信による書面議決とした（7月22日 締め切り）
10月13日（木）	合同作品展 運営委員会①	・前年度からの引継ぎ事項の確認 ・役割分担の確認等
11月24日（木）	合同作品展 実行委員会①	・前年度からの引継ぎ事項の確認 ・係分担・係の内容の確認など ・研修内容の検討
1月19日（木）	合同作品展 運営委員会②	・作品展開催の準備等
1月28（土） ～30日（月）	合同作品展	・各学校の幼児児童生徒の作品展
1月30日（月）	合同作品展 反省会	・係からの反省 ・次年度に向けて
2月下旬～3月上旬	第2回事務局会	・活動総括と次年度の活動計画について ・次年度事務局の確認及び引継事項の確認

3 本エリア部会の成果と課題

本年度の総会は、上記「活動内容」にある通り、部会所属校に総会議案を事前配布し、書面議決をとる形で成立させることとなった。夏季研修会については、宮崎県特別支援教育研究連合研究大会に参加することで、エリアの研修として併催させていただいた。当日、延岡市の小中学校は1学期終業式と重なり、午後からの参加が多かった。

合同作品展は、例年延岡市内の会場において実施されており、約500名の来場者がある地域に根ざした取組である。今年度は、カルチャープラザのべおかを会場とし、部会所属校に在籍する幼児児童生徒が製作した作品を3日間に渡って展示する予定である。3年ぶりの作品展となるので、コロナウイルス感染予防を徹底した上で実施したいと考えている。

エリア部会としては、コロナウイルス感染症の感染状況を常に把握し、感染対策の在り方について他県や他研究会の実施態勢に鑑みながら、企画・運営に取り組んだ。今後も夏季研修会や合同作品展等の実施内容及び実施態勢について、時代の動きを把握しながら、延岡・西臼杵エリアの特別支援教育の推進に寄与できるよう努めていきたい。

VI 令和4年度 全国大会報告

第97回 令和4年度全日本盲学校教育研究大会・富山大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「変化する社会に対応した視覚障害教育～ 学びを支える教育環境の変化に伴う指導・支援のあり方～」
- (2) 期 日 令和4年8月1日（月）～8月30日（火）、【情報交換会】8月22日（月）
ライブ開催
- (3) 場所（会場） オンライン会場

2 内 容

- (1) 全体会・講演（オンデマンド配信）
 - ① 演題 「デジタル社会（ICT）の到来と視覚障害者の生活や職業の展望
～今、学校教員（教育）に求められるもの～」
講師 内閣府障害者政策委員会 委員長、全国高等教育障害学生支援協議会 代表理事、
障害学会 会長、元国連障害者権利委員会 副委員長、
静岡県立大学名誉教授 石川 准 氏
- (2) 分科会（オンデマンド配信）
 - ① 研究発表（発表者33名）動画形式の音声付きパワーポイントデータ
 - ア 第1分科会 学習指導1（7名）
 - イ 第2分科会 学習指導2（6名）
 - ウ 第3分科会 生活（7名）
 - エ 第4分科会 特別支援（6名）
 - オ 第5分科会 理療（7名）
- (3) 情報交換会
 - ① 全国の盲学校・視覚特別支援学校をつなぎ、発表者と視聴者が参加
 - ア 期日までに Web 上に載せられた質問への回答や意見交換、各分科会テーマに沿った情報交換の場とする。

3 報 告

今年度の全日本盲学校教育研究大会は新型コロナウイルス感染拡大を受け、全大会と分科会発表はオンデマンド配信で、情報交換会は Zoom でリアルタイムに実施された。

例年であれば学校から出張として3名ほどが研究大会に参加していたが、今回はオンデマンド配信であったため、団体として登録し、職員全員が視聴出来た。視覚障がい関係の研究大会は限られているため、多くの職員が講演や発表を視聴できたことは貴重であった。また、第4分科会では本校が早期教育について幼稚部の取組を発表した。質疑応答の際にも各機関との連携について情報交換ができるなど充実した場となっていた。

第56回全日本聾教育研究大会（愛知大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「聴覚障害教育の専門性の継承とさらなる発展」
～主体的・対話的で深い学びの授業を目指して～
- (2) 期 日 令和4年10月6日（木）、7日（金）
- (3) 場 所 ウィンクあいち、千種聾学校、一宮聾学校、名古屋聾学校

2 内 容

【1日目】10月6日（木）

授業公開（千種聾学校、一宮聾学校、名古屋聾学校）

授業研究分科会（幼稚部、小学部、中学部、高等部本科、高等部専攻科）

開会式・記念講演会

【2日目】10月7日（金）

研究協議分科会

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| ① 早期教育Ⅰ（乳幼児） | ② 早期教育Ⅱ（幼稚部） |
| ③ 教科指導Ⅰ（小学部） | ④ 教科指導Ⅱ（中学部） |
| ⑤ 教科指導Ⅲ（高等部） | ⑥ 自立活動Ⅰ（発語・発音、聴覚活用） |
| ⑦ 自立活動Ⅱ（障がい認識、コミュニケーション） | |
| ⑧ 重複障害教育 | ⑨ 寄宿舍教育 |
| ⑩ キャリア教育 | ⑪ 地域連携・センター的機能 |

閉会行事

【その他】

授業研究分科会 ※オンデマンド配信

（愛知県立一宮聾学校 中学部 国語「盆土産」）

【記念講演】

演題 「令和に日本型学校教育を実現するために」 講師 玉置 崇 氏（岐阜聖徳学園大学）

3 報 告

授業公開では、主に一宮聾学校中学部の授業を参観した。各学級3名程度のクラス編成であった。授業では、教師が個々の実態に応じた言葉掛けや生徒間の関わりを深めるための支援を行うことで生徒が積極的に情報を共有し、お互いの考えや気づきを伝え合っていた。授業研究分科会では、事前にオンデマンド配信で代表授業公開（中学部国語）が行われた。考えを深め合うための「話し合い」がテーマとなった。話し合いをする上では、①決め事②指導③フォーマットのように手順を踏みながら体験を通して身に付けていくことが必要であることが分かった。また、話し合いの目的や目標がおさえられていたかの振り返りも重要であることが分かった。研究協議会の情報交換の中で、地域の中学校との連携を通して教科指導の専門性の向上を図っている学校があり、参考になった。記念講演は、玉置先生が「授業とは、この私が目の前にいるこの子どもとともに創っていくもの」と話された。主体的な子どもを育てるためには、授業に1つ生徒が自己選択できる場面を入れること、子ども自身が学習を調整するための振り返りが大切であることが分かった。もっと学びたいと思える授業でできているだろうか、確かな言語力は身に付いているだろうか、自分自身の授業を振り返る機会となった。

第61回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「秋田大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「夢や志をもち、自ら未来を切り拓く子どもの育成」
～「自立と社会参加」に向けた特別支援教育の充実を目指して～

2 内 容

- (1) 記念講演
演題：「全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性」
～発達障害のお子さんへの指導や支援を通して～
講師： 秋田大学教育文化学部 准教授 鈴木 徹 氏
- (2) 研究報告
三木安正記念研究奨励賞受賞者
「児童の『できる』を増やす支援について」
～ABC分析の考え方を取り入れたリーフレットの作成・活用を通して～
千葉県茂原市立荻原小学校 教諭 鈴木 あやか
- (3) 分科会（全14分科会）

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	学校経営	社会に開かれた教育課程の充実	川崎市・秋田県
2	自立活動	一人一人に必要な力を育む自立活動	北海道・湯沢市
3	交流及び共同学習	豊かな関わりを育む交流及び共同学習	城陽市・鹿角市
4	通常の学級での取組	特別支援教育の視点を生かした授業と学級経営	焼津市・仙北市
5	通級による指導	一人一人に応じた効果的な指導や支援の在り方	熊本市・横手市
6	特別支援学級における教科指導	教科の特性を生かし障害に応じた指導の在り方	村山市・由利本荘市
7	生活単元学習	生活を豊かにする生活単元学習	茨城大附属・能代市
8	作業学習	社会的自立に向けた作業学習	鳥取大附属・大館市
9	視覚障害	視覚障害のある児童生徒への専門性を生かした指導	新潟県・秋田県
10	聴覚障害	聴覚障害のある児童生徒への専門性を生かした指導	岩手県・秋田県
11	肢体不自由	障害の特性等に応じた指導上の配慮の在り方	丹波篠山市・秋田県
12	センター的機能	地域の特別支援教育に関するセンターとしての機能の在り方	福島県・秋田県
13	教科別の指導	教科の特性を生かし障害に応じた指導の在り方	青森県・秋田県
14	キャリア教育と就労支援	卒業後を見据えた一貫した指導の在り方	宮城県・秋田県

3 報 告

今回の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、全体会は参加者を限定しての会場開催、分科会は誌上開催となった。大会収録【CD-R】と全体会【DVD】は、令和5年2月末までに、各研究団体へ送付予定である。来年度の全国大会は、徳島県において従来の形（参集）での開催予定である。

第68回全国肢体不自由教育研究協議会全国大会 兵庫大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進」
～個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざして～
- (2) 期 日 会場集合 令和4年11月17日(木)
動画配信 令和4年12月21日(水)～令和5年1月10日(火)
- (3) 開催形式〈会場集合〉
アクリエ姫路（姫路市文化コンベンションセンター）
〈動画配信〉
第68回全国肢体不自由教育研究協議会兵庫大会 ホームページ

2 内容

- (1) 〈全体会〉
- ・会長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞
 - ・文部科学省講話
演題：「肢体不自由教育に期待すること」
講師：初等中等教育局視学官
(併)特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏
 - ・記念講演講話
演題：「肢体不自由教育の今後～高等部卒業後の豊かな生活をめざして～」
講師：兵庫教育大学名誉教授 冨永 良喜氏

(2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ（準ずる教育程）
第3分科会	学習指導Ⅱ（知的代替の教育課程）
第4分科会	学習指導Ⅲ（自立活動を主とする教育程）
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路活動
第10分科会	地域との連携

- ・提案者からの事例報告 各分科会2名 音声付きプレゼン・動画等による報告
- ・助言者からの指導助言 音声付きプレゼン・動画等による指導助言

【ポスター発表】

- ・ホームページ上でのポスター(PDF)発表

【大会冊子】

- ・大会期間は大会概要等、一部データのダウンロードが可能
- ・大会集録を作成し、開催終了後に参加各校あてに送付

3 報告

本大会は、会場において開会式・全体会等、大会行事の一部が開催され、後日その内容と事前撮影された動画を大会ホームページ上にアクセスして見る形で実施された。

記念講演では、富永良喜氏が肢体不自由特別支援学校(養護学校)で学んだ方へのインタビューを通して、卒業後の自立や学校での自立活動についての話をされた。コミュニケーション力の育成、主体的・自発的・能動的な生き方が大切であり、それには周囲のサポート、本人の意思と努力が必要だと話されていた。また、肢体不自由教育を実践する中で大きな役割を果たす自立活動の中でも「5身体の動き」が重要だと考えられており、動作が心理的安定、主体性・能動性、コミュニケーション・人間関係形成に繋がっていて、上手く身体を動かさない時に周囲にお願いできるかということが「困ったときに助けを求める」力に繋がるという内容だった。

文部科学省講話では、主に学習評価について話をされた。指導と評価の一体化が重要だということ、評価の妥当性、客観性をもたせるために観点別評価の必要性があること、単元を通して全観点について評価すること、活動の評価にならないようにすることについて、具体的な単元を例に挙げながら講話があった。

分科会は、各分科会2つずつの事例報告の動画と、助言者からの指導助言を視聴することができ、ポスター発表では計79のポスターを閲覧することができた。Web開催となったことから、学校や自宅で動画や資料を視聴・閲覧することができ、全国の多くの参加者にとって、大変有意義な大会となった。

第63回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 山口大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育のあり方」
～ 子どもたちが生きる未来 今 できること ～
- (2) 期 日 令和4年8月10日(水)～31日(水)
- (3) 方 法 動画および電子文書の配信

2 内 容

- (1) 全体会
①全病連理事長あいさつ
②主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演
演題 「令和の病弱特別支援教育へ—小児科医がお伝えしたいこと—」
講師 かねはら小児科 院長 金原 洋治 氏
- (3) 特別講演
演題 「病気の子供の学びの充実に向けて～病弱教育への期待～」
講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育調査官 深草 瑞世氏
- (4) 特別企画
ドキュメンタリー映画上映 「がんと生きる 言葉の処方箋」 ©2018 がん哲学外来映画製作委員会
- (5) 分科会

分科会名	担当提言校	指導助言者
教科等の指導	栃木県立岡本特別支援学校 岡山県立早島支援学校	広島県立呉南特別支援学校 教頭 竹野 政彦氏
自立活動の指導	和歌山県立みはま支援学校 香川県立善通寺養護学校	関西学院大学教育学部 教授 丹羽 登氏
進路指導・キャリア教育	東京都立武蔵台学園府中分教室 島根県立松江緑が丘養護学校	松山東雲女子大学人文科学部 特任教授 島 治伸氏
センター的役割	秋田県立秋田きらり支援学校 鳥取県立鳥取養護学校	山口県教育庁特別支援教育推進室 主幹 勇次 伸一郎氏
PTA	熊本県立黒石原支援学校 山口県立豊浦総合支援学校	全病 PTA 連合会 事務局長 南風野 久子氏
心身症・精神疾患	青森県立浪岡養護学校 高知県立高知江の口特別支援学校	国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 土屋 忠之氏
重度重複障がい	大阪府立利根山支援学校 広島県立広島西特別支援学校	帝京平成大学人文社会学部児童学科 教授 齋藤 由美子氏
ICT 活用	愛知県立大府特別支援学校 徳島県立鴨島支援学校	京都女子大学発達教育学部 教授 滝川 国芳氏
地域連携	富山県立ふるさと支援学校 愛媛県立しげのぶ特別支援学校	山口大学教育学部 准教授 須藤 邦彦氏

3 報 告

今大会は、web 上で動画や電子文書の配信での開催となった。学校単位で申し込み、発行された ID とパスワードの入力で、大会期間中、閲覧することができた。そのため、夏季休業中の個人研修の一環として視聴することが可能で、多くの会員が大会に参加することができた。特別講演では、小児科の医師より、精神疾患や心身症が併存する発達障害は病弱特別支援教育の対象である。軽快・治癒する可能性はあるが、長期間にわたる治療が必要であり、その間の子供の状況に合った適切な教育の場の提供が臨まれる。医療と教育、福祉の連携が大切との話があった。分科会は、例年どおり9分科会設定されたが、内容の変更があった。スライドを用いた発表や指導助言も動画で配信されたが、どの発表も具体的な取り組みがあげられており、参考になり意義深い大会であった。

第54回全国情緒障害教育研究協議会 沖縄大会

第50回九州地区情緒障害教育研究会 沖縄大会

1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「子どもたちの未来へつなぐ指導・支援のあり方を考える」
～子どもたち一人一人に寄り添った学校教育と放課後支援を目指して～
- (2) 期 日 令和4年8月4日(木) 12:30～16:30
8月5日(金) 9:00～16:30
- (3) 場所(会場) 那覇文化劇場なは一と(大劇場, 小劇場)

2 内 容

8月4日 記念講演
「うちの火星」～全員発達障がいの家族から学ぶ、個性と共に生きる知恵～
平岡禎之, 妻(ワッシーナ), 長女(ニャーイ)
ファシリテーター: 小浜ゆかり(NPO法人わくわくの会, 作業療法士)

8月5日 分科会

分科会1: 自閉スペクトラム症

指導助言・講話 星槎大学大学院: 阿部利彦
発表者 ①沖縄県南城市立大里南小学校: 圓歌苗
②福岡県大牟田市立大牟田中央小学校: 井上由希子

分科会2: 教科指導, 自立活動

指導助言・講話 飯塚市立飯塚小学校: 杉本陽子
発表者 ①北海道札幌市立大平小学校: 深谷和貴
②山口県宇部市立岬小学校: 西田久美江

分科会3: LD・ADHD

指導助言・講話 明治学院大学: 海津亜希子
発表者 ①大分県中津市立北部小学校: 佐々木悦子
②佐賀県唐津市立西唐津小学校: 熊本愛子
佐賀県唐津市立西唐津中学校: 家永真理子

分科会4: 放課後等デイサービスの取り組み

指導助言・講話 全国放課後連副会長 ゆうやけ子どもクラブ 代表: 村岡真治発表者
①沖縄県 レジリエンススポーツセンター: 栄孝之
②沖縄県 キッズハウス福寿草: 宇榮原宗博

3 報 告

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うという目的のもと2007年4月から特別支援教育が学校教育法に位置づけられ、すべての学校において様々な取り組みが行われている。また、「障害者の権利に関する条約」の批准や「障害者差別解消法」の施行等、共生社会の形成に向けた体制づくりも進められてきた。

教育現場においては特別支援学級の急激な増加に伴い、教員の特別支援教育に対する専門性の向上、保護者や関係機関との緊密な連携が求められている。そして、児童生徒の放課後の過ごし方の充実や進路、就労に向けた支援の在り方も重要視されている。

本大会では、全国・九州各都道府県の学校教育や放課後等児童デイサービスの実践を共有し、個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方について協議を行うことで、参加者の専門性や指導力を高め、児童生徒の未来へつなぐ支援の充実が図られた。

※ 大会資料より抜粋(現地開催の為、出席者無し)

第5 1回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（北海道大会）

1 大会概要

- (1) 大会テーマ 「ことばを支える『心の育ち』を大切にしたい支援のあり方を考える」
- (2) 期日 令和4年9月15日（木）～10月15日（土）
- (3) 方法 オンデマンド（YouTube）による映像配信

2 内容

- (1) 記念講演 「心とことばの育ちを支えるために私たちができること」
講師 川合 紀宗 先生（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

- (2) 特別講義 分科会コーディネーターによる専門講義

第1分科会	同年代とのコミュニケーションに課題があるAさんの事例 (発表概要) 同年代の子どもとのコミュニケーション	滑川 典宏先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第2分科会	吃音のある子どもと母親の支援 ～グループ活動を通して～ (発表概要) 吃音・保護者支援	小野寺 基史先生 (北海道教育大学)
第3分科会	気持ちを心地よく表現しづらい吃音があるAさんの事例 (発表概要) 自己表現・吃音との関連	牧野 泰美先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第4分科会	発音の相談に来たけれど、他者との関わり方が心配なY君 (発表概要) 側音化構音・注意集中の課題	西田 立郎先生 (言語聴覚士)
	全体発達に課題のあるA君の事例 (発表概要) 発音不明瞭・子ども理解	
第5分科会	Aさんの前向きな学校生活を支える通級指導について (発表概要) 発音・自己表現の弱さ	久保山 茂樹先生 (独立行政法人国立特別支援教育)
第6分科会	地域の研究団体や親の会とのより深い連携を目指して (発表概要) 地域連携・親の会	大西 孝志先生 (東北福祉大学)

3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染防止のため、記念講演と分科会についてオンデマンドによる映像配信となった。「その子をどのようにとらえていくか。」「問題をどのようにおさえ、問題の発生と経過をどうとらえるか。」「必要な育ちとは何か。どのようにかかわり、支援するか。」「支援の経過をどのように振り返り、関係する人々とどう情報共有するか。」を柱とした研究大会で、子どもに寄り添った指導・支援の大切さを学ぶことができた大会となった。

Ⅶ 令和4年度 九州地区研究大会報告

令和4年度九州地区盲学校教育研究会

1 大会概要

- (1) 大会主題 令和4年度 九州地区盲学校教育研究会沖縄大会
- (2) 期 日 令和4年11月18日(金)
- (3) 会 場 沖縄県立沖縄盲学校 (web会議システムを使用し分科会ごとにリモートで実施)

2 内 容

- (1) 第1分科会 (学習指導1)
 - ① テーマ 「考えたことや想像したことを整理し、人に伝える力を育成する国語科指導の在り方」
 - ② 協議題
 - ア 言葉と事物を結び付け、正しくイメージを持つための工夫について
 - イ 考えたことや想像したことを言語化し、人に伝えるための工夫について
 - ウ 話し合って意見をまとめるための工夫について (対話的な学び)
- (2) 第2分科会 (学習指導2)
 - ① テーマ 「視覚障害からくる、動きのぎこちなさを改善するための指導と手立てについて」
 - ② 協議題
 - ア 走・跳・投のボディーイメージを高めるための指導の工夫について
 - イ 基礎体力を向上させるための取り組みについて
- (3) 第3分科会 (生活)
 - ① テーマ 「異年齢集団で育むコミュニケーション力を高めるためのアプローチの仕方」
 - ② 協議題
 - ア 個々に応じたコミュニケーションを引き出す工夫について
 - イ 生活に楽しみと潤いをもたらす取り組みについて
- (4) 第4分科会 (特別支援)
 - ① テーマ 「センター的機能を果たすための教育相談体制の現状と課題について」
 - ② 協議題
 - ア 児童生徒数減少に伴う教育相談のあり方について
 - イ 地域や関係機関との連携について
- (5) 第5分科会 (理療)
 - ① テーマ 「就職後の同僚間のコミュニケーション能力育成について」
 - ② 協議題
 - ア 自己開示、援助依頼について
 - イ 生徒数減少に伴うコミュニケーション概論の演習方法について

3 報 告

今年度は、前年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、Web 会議システムを利用してリモート開催されることとなった。しかし、これにより通常より多くの職員が担当する教科や業務に関連のある分科会に参加することができた。活発な質疑応答や意見交換がなされ、九州各県の視覚支援教育の現状を知る良い機会となった。なお、次年度は本校が主管校となり本大会が開催される予定である。

第27回九州地区聴覚障害教育研究大会（福岡大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する聴覚障がい教育を目指して」
- (2) 期 日 令和4年11月4日（金）から5日（土）まで
- (3) 場 所 福岡聴覚特別支援学校（1日目）・福岡高等聴覚特別支援学校（2日目）

2 内 容

【1日目】11月4日（金）

授業公開（幼稚部・小学部・中学部）

【2日目】11月5日（土）

開会行事・研究概要説明・公開授業（高等部・専攻科）・意見交換会・記念講演・パネルディスカッション・閉会行事

【意見交換会】

① 文系グループ ② 理系グループ ③ 実技系グループ

【記念講演】

演題 「聴覚障がい教育における主体的・対話的で深い学び」

講師 大西 孝志 氏（東北福祉大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻教授）

【パネルディスカッション】

テーマ「深い学びに迫る」

《パネリスト》

大西 孝志 氏（東北福祉大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻教授）

和田 美千代氏（福岡大学 人文学部 教授）

喜屋武 睦 氏（福岡教育大学 教育学部 特別支援教育ユニット 講師）

坂口 和俊 氏（福岡県立久留米聴覚特別支援学校 前校長）

3 報 告

今大会は3年ぶりの集合開催となった。1日目は幼稚部・小学部・中学部の授業を参観した。まず、校舎の広さや各教室のICT環境に驚いた。各教室には、電子黒板が配置され、生徒はタブレットを自在に使いこなし、廊下にはあらゆるところにモニターが設置され、様々な情報が常に発信されていた。また重複学級の幼児・児童・生徒が多く、これからの本校の姿や重複学級の教育課程の充実について考えさせられた。

2日目は福岡高等聴覚特別支援学校で大会行事と公開授業があった。限られた時間の中で慌ただしく授業を参観したが、特に高等部専攻科 職業技術科ビジネスコースでは、整ったICT環境の中、専門的な知識や技術を習得するための実践的な教育内容となっており、社会に出るために必要な力を身に付けることができるコースであった。幼稚部から高等部までの一貫した教育が為されていると実感することができた2日間だった。

第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会「沖縄大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 新しい時代に生きる力を育む特別支援教育の展開
～一貫性・系統性のある学びの保障をめざして～
- (2) 期 日 令和4年11月10日(木)・11日(金)
- (3) 場所(会場) オンライン (Zoom ウェビナーおよびミーティング)

2 内 容

- (1) 第1日目
- ① 開会行事
- ② 記念講演 演題『一人一人の子どもの自立と社会参加を見据えた教育課程の在り方
～学びの一貫性・系統性を実現するためのポイント～』
講師 長崎県教育委員会 特別支援教育課 課長 (前 文部科学省初等中等教育
局視学官) 分藤 賢之 氏
- (2) 第2日目
- ① シンポジウム
- 《1 知的障害教育における教育課程》共生社会の実現に向けたすべての子どもたちの可能性を引き出す学びの実現をめざした教育課程の在り方を考える
- 《2 知的障害教育におけるICT活用》GIGAスクール時代の特別支援教育におけるICT活用～学校と行政、両方の立場から考える
- ② 分科会 1・2・3・4・5・6・7

【分科会 (全7分科会)】

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	日常生活の指導	学習・生活上の困難さに応じた 個別指導の工夫	熊本県・福岡県・沖縄県
2	生活単元学習	児童生徒の自然な生活としての まとまりのある学習の展開	福岡県・佐賀県・沖縄県
3	教科別の指導	主体的・対話的で深い学びの視点を 踏まえた教科別 指導の工夫	佐賀県・長崎県・沖縄県
4	作業学習・進路学習	卒業後の自立と社会参加に向けた 学習の在り方	長崎県・大分県・沖縄県
5	自立活動	主体的に困難の改善・克服に取り組む 自立活動	大分県・宮崎県・沖縄県
6	交流及び共同学習	心のバリアフリーのための 交流及び共同学習	宮崎県・鹿児島県・沖縄県
7	自閉症・発達障害への 支援	一人一人の障害特性に応じた 指導・支援の在り方	鹿児島県・熊本県・沖縄県

3 報 告

昨年度と同様、今回の研究大会も新型コロナウイルス感染防止を考慮しオンラインにて開催された。記念講演では、教育課程の在り方について、分かりやすく丁寧に説明していただいた。また、シンポジウム及び分科会において、各学校や児童生徒の実態把握を行ったうえで、計画や指導・支援を行っていくということが重要という話が多くあがっていた。来年度は、福岡県で開催予定である。

第 59 回九州地区肢体不自由教育研究大会大分大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ
「学習指導要領を踏まえた肢体不自由教育の充実を図る」
- (2) 開催期間
令和 4 年 10 月 14 日（金）から 11 月 30 日（水）
- (3) 開催形式 <Web での開催>
第 59 回九州地区肢体不自由教育研究大会特設ホームページ

2 内 容

- (1) ①役員会：PTA 連合会 PTA 会長会 校長会 全体会（オンライン会議による実施）
②文部科学省講話（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
講師：菅野和彦氏
演題：「国の動向と肢体不自由教育への期待～学習指導要領の着実な実施から、よりよい実施へ～」
③記念講演（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
講師：廣道純氏
演題：「どうせ、生きるなら～プラス思考のススメ～」
④学校公開（10 月 14 日から 11 月 30 日まで オンデマンド配信）
大分県立別府支援学校本校及び鶴見校の学校紹介、授業の様子
- (2) 第 1 分科会～第 7 分科会提案資料（オンライン会議による実施）

分科会	内容
第 1 分科会	教育課程・授業改善
第 2 分科会	学習指導（準ずる教育課程・下学年 / 知的代替の教育課程）
第 3 分科会	自立活動
第 4 分科会	情報教育・支援機器の活用
第 5 分科会	センター的機能・健康教育
第 6 分科会	PTA・地域との連携
第 7 分科会	生活指導・寄宿舎教育

- (3) ポスター発表、指導案（10 月 14 日から 11 月 30 日まで公開）
- (4) PTA 座談会（オンライン会議による実施）

3 報 告

今年度の九州地区肢体不自由教育研究大会は、コロナ禍にあってもより多くの方が九州各県の取組が学べるように、ポスター発表や動画、大会資料などを WEB 上に公開し、役員会や分科会、PTA 座談会は、オンラインでの開催、講話や講演、学校公開はオンデマンド配信にて行われた。

役員会では、PTA 連合会、PTA 会長会、校長会、全体会が行われ、研究会の課題や今後の方向性等が話し合われた。

文部科学省講話では、視学官の菅野和彦氏に「国の動向と肢体不自由教育への期待～学習指導要領の着実な実施から、よりよい実施～」という演題で講演していただいた。

記念講演では、プロ車いすアスリートとして活躍されている廣道純氏に「どうせ、生きるなら～プラス思考のススメ～」の演題で講演していただいた。

分科会では、7 分科会に分かれ、それぞれのテーマ毎に提案者からの発表があり、質疑応答、協議の柱を中心とした協議、指導助言と続いた。各分科会でそれぞれの学校の特色のある実践の発表があり、活発な議論が展開された。

第62回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 鹿児島大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「病弱虚弱教育の今後の在り方を求めて ～新学習指導要領をふまえて～」
(2) 期 日 令和4年8月17日(水)～18日(木)
(3) 方 法 オンライン会議システム (Zoom)

2 内 容

- (1) 第1日目
①分科会打合せ
②理事会
③校長会
(2) 第2日目
①開会行事・総会
②講演Ⅰ(録画配信) 演題「子どもたちの可能性を引き出す病弱教育」
講師 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 調査官 深草瑞世氏
③講演Ⅱ(Live 配信) 演題「特別支援学校における摂食指導の意義と役割」
講師 鹿児島大学病院 小児歯科 講師 佐藤 秀夫氏
④分科会

分科会名	提言テーマ	担当提言校
教科・領域の指導	「不登校である生徒Aの継続した学習に向けた取組」 ～ICTを活用した学習支援を通して～	福岡県立 古賀特別支援学校
	「自己と向き合う制作活動と展覧会等の活用について」 ～児童生徒のニーズに沿った作品制作指導と作品展・コンクールの活用～	鹿児島県立 加治木養護学校
自立活動の指導	「個々の目標に迫るための授業改善への取り組み」 ～ベッドサイド授業の一事例研究を通して	佐賀県立中原特別 支援学校
	「自ら相談し、整理し、安心して行動できる力の育成を目指して」 ～「自分らしく 輝く つながる ふみ出す」授業の実践	熊本県立 黒石原支援学校
発表校による設定	「自ら課題を設定し、表現力を高めることができる生徒の育成」 ～学び合いの活動の中で作る創作ダンスを通して～	福岡市立 尾形原特別支援学校
	病弱特別支援学校における自立活動の取組	長崎県立大村特別 支援学校西大村文教室

3 報 告

感染防止の観点から、2年続けてのオンライン会議システムでの開催となった。参加校に2回線の割り当てがあり、本県からは赤江まつばら支援学校より7名が参加した。

講演の一つ目は、あらかじめスライドに音声録音されたものが配信された。文部科学省調査官より、病弱教育の現状についての説明があった。児童生徒数は減少しているが、特別支援学校等では増加の傾向にあり、病弱児の精神疾患及び心身症についての割合は、今後も増えると想定されていることや、病弱教育に関する施策(特に高等学校段階の遠隔教育について)について伝えられた。

講演の二つ目は、鹿児島大学病院の歯科医師より、「食べる機能の獲得」が「摂食指導」であり、これは重要な教育課題であること、摂食指導で大切なことなどが話された。

分科会は、例年どおりの3分科会の開催で、当番校からの発表が各20分あり、質疑の時間が設けられ双方向のやり取りがあった後、指導助言という流れであった。

協議などの時間の設定はなかったが、各県から、より多くの方が参加することができ、意義深い研究協議会であった。

第46回九州地区難聴・言語障害研究大会（鹿児島大会）

1 大会概要

(1) 大会主題

「これからの難聴・言語障がい教育のあり方を考える」
 ～ 子どもや保護者のニーズに応える支援や連携をめざして ～

(2) 期日 令和4年度8月3日（水）、4日（木） ※ 中止

(3) 方法 誌上発表

2 内容

分科会	テーマ	発表県	発表のテーマ
第1分科会 (構音)	構音に誤りのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	佐賀県	カ行音とガ行音に置換のある子どもの構音指導～舌の動きの未熟な本児の指導を通して～
		長崎県	個の特性に配慮した、ことばの教室での構音指導～子どもと保護者に寄り添いながら～
第2分科会 (吃音)	吃音のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	福岡県	吃音とうまく付き合える子どもを育てる通級指導のあり方～向き合い 交流し伝える活動の工夫を通して～
第3分科会 (言語発達)	言語発達に課題のある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	大分県	自分の思いや考えを言葉で伝え合い、進んでコミュニケーションを楽しめる児童の育成～会話・ひらがなの読み書き等に困りのある子どもの支援～
		沖縄県	難聴児における日本語の語彙力、文法力を高める指導の工夫
第4分科会 (聴覚)	聴覚に障がいのある子どもをどうとらえ、どう支援していくか。	宮崎県	通常の学級に在籍する聴覚障がいのある子どもへの対応～子どもや保護者の思いに寄り添った支援体制や環境整備について～
		熊本県	「中学校難聴通級指導教室の取り組み」
第5分科会 (連携)	子どものために、どう連携し支援していくか。	鹿児島県	多様化した通級児童が安心して学校生活を送るための連携の実践

3 報告

今年度の研究大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、誌上発表となった。宮崎県からは宮崎市立小戸小学校の矢動丸博子先生が聴覚障がいのある子どもへの対応についてまとめられ、宮崎県難聴・言語障がい教育研究会研修会において発表検討を行ってきた。より多くの会員が各県の先生方の研究実践を参考にし、日々の教育活動に役立てることができたのではないかと考える。

VIII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と
宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

小・中特研部会

1 研究主題（テーマ）

「教育的ニーズに応える特別支援教育の在り方について」

2 主な研究・活動の内容

（1）年間活動報告

- ① 全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会定期総会・研究協議会及び第1回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（6月2日 オンライン参加）
- ② 第1回事務局会の開催（6月27日 ZOOM）
- ③ 第1回理事会（7月19日 書面決議）
- ④ 令和4年度第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会及び各分科会（7月29日 オンライン参加）
- ④ 第50回九州地区情緒障害教育研究会沖縄大会（8月4日 オンライン参加）
- ⑤ 第59回全国研究協議会千葉大会及び第2回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（8月4日 オンライン参加）
- ⑥ 第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会沖縄大会（11月10日から11日）日向市立平岩小中学校 加塩祐子教諭がオンラインで発表
- ⑦ 第2回事務局会（1月23日 ZOOM）
- ⑧ 第3回全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会（1月27日 オンライン参加）
- ⑨ 第2回理事会（2月 書面決議）、研究集録「むすび」の発行（2月）
- ⑩ 監査（3月）

3 主な研究成果

（1）成果

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議を行った。伝達が不十分な点もあったが、各地区担当理事の協力を得て、負担金を関係団体へ納金することができた。
- 第56回九州地区特別支援教育研究連盟研究大会沖縄大会（11月10日から11日）では、日向市立平岩小中学校の加塩祐子教諭が第5分科会 自立活動で発表を行うことができた。
- コロナ禍の中、各地区ごとに工夫を凝らしながらできる範囲での活動を行った。

（2）課題

- 各地区特研や障がい種別研究会から多くの協力を得られたが、活動推進に対しては本会から十分な支援を行うことができたとはいえない。

- 研究集録を冊子として作成・発行しているので、各学校での活用を呼びかけたい。
- 令和5年度から、小中特研の事務局が小戸小へ移動すること、R5九特連福岡大会は第4分科会「作業・進路」を串間地区が担当、R6九特連福岡大会は第3分科会「各教科等をあわせた指導」を宮崎地区が担当となることを、書面決議のなかで引き継ぎが上手くいくよう、連絡を密にしていく必要がある。

令和4年度 宮崎県特別支援学校教育研究会

1 組織

本会は、県内の特別支援学校によって組織され、職員の資質向上と特別支援教育の振興を図ることを目的とし、11部会で運営されている。

2 各部会の活動状況

(1) 教務主任部会

本年度は、第1回を6月に新型コロナウイルス感染対策のためオンラインで実施し、第2回を12月にハイブリット方式(オンライン、対面)で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症者数が増えたためオンラインのみの実施となった。各回ともに半日の実施であったが、今年度から期日が早くなった令和5年度幼稚部・高等部入学選考についての諸々の対応、コロナ禍等を踏まえた令和5年度学校行事の実施方法、県の統一様式(個別の指導計画・個別の教育支援計画)への移行の進捗状況、働き方改革について業務改善等、各校の具体的な取組等の意見交換を行い有意義な会となった。

(2) 生徒指導主事部会

今年度は年2回の部会を計画した。研究テーマ「これからの生徒指導の在り方～連携と改善(校則・制服・いじめへの対応)」について、各校の課題等を集約し意見交換を行った。第1回は6月に対面にて実施した。第2回は1月に現在の課題解決と研究のまとめ、来年度のテーマについて検討する予定である。これからもミライム等を適宜活用し、即時に情報交換を行うことで連携を図り、共に課題を解決できるよう取り組んでいきたい。

(3) 保健主事・養護教諭部会

今年度は、8月に予定していた合同部会が、新型コロナウイルス感染症の県内での感染状況を踏まえ、リモートでの開催となった。協議では、新型コロナウイルス感染症に関する取組をはじめ、各校の多くの議題や取組について情報交換を行い、共有することができた。新型コロナウイルス感染症に関しては、来年度も感染症対策を継続し、学校行事や学習活動をできる限り実施できるように取り組んでいければと考える。今後も各校の課題や取組を共有し、研修等を重ね学校保健の充実に努めていきたい。

(4) 進路指導主事部会

本部会は、県立特別支援学校の進路指導主事及び宮崎県特別支援学校教育研究会理事(部会長)で構成されている。本年度の部会は、第1回目の開催を8月25日(木)に行った。各学校の進路支援の取り組みについて情報交換を行い、キャリアパスポートについても協議をすることができた。第2回目の部会は2月3日(金)にみなみのかぜ支援学校での開催を予定している。内容は、各学校の進路状況や進路指導上の成果や課題などについて協議を行い、次年度に役立てたい。

(5) 栄養教諭・栄養職員部会

本年度の栄養教諭部会は、第1回部会を7月26日（金）に日向ひまわり支援学校をホストにオンラインで開催し食材費の高騰に対する学校給食での対応について共有した。第2回は、12月15日（木）に日向ひまわり支援学校にて、調理場の見学の他、コロナ禍前後での給食感謝週間での実施内容や各学校での給食費の値上げ検討について情報の共有を行った。今後も各校の課題や取組を共有し、安全・安心な給食運営と食育の充実を図っていきたい。

(6) 美術科代表者部会

平成14年から開催している「特別支援学校アート展」は、今年で20回を迎え、9月15日（木）より9月19日（月）まで宮崎県立美術館県民ギャラリーにて開催された。会期中台風により3日半の開催となったが、887名の来場者があった。今年のアート展の出品数は、造形・絵画262点、書道27点、写真41点、立体54点、合計384点となった。

(7) 音楽科代表者部会

6月と8月に行った音楽代表者部会では、本年度11月と12月に開催した令和4年度九州音楽教育研究大会宮崎大会に向け、研究テーマに基づいた授業研究をし、大会で公開授業の指導案検討を行った。また、大会の運営委員として、開催に向け、係打ち合わせなど準備を行った。結果、これまでにないハイブリッド式（対面とオンライン形式による）での大会運営であったが、無事に実施でき、意義のある大会となった。

(8) 保健体育科代表者部会

本年度は年3回の部会を計画した。第1回は明星視覚支援学校にて研究の進め方について協議し、段階表を活用して授業と評価の改善について取り組むことを確認した。第2回は新富町総合交流センターにて全国学校体育研究発表大会の報告や、保健体育科代表者部会 GoogleClassroom の活用及び今後の保健体育科の組織の在り方について協議を行った。第3回は児湯るびなす支援学校にて、次年度の研究についての協議や ICT 教材の作成を行う予定である。

(9) 家庭科代表者部会

今年度は「学びに向かう力を高めるための家庭科教育とは～食物教育について～」という研究主題を設定し、食物に関する研修を2回計画した。第1回の部会は、コロナ感染症対策を行い、みなみのかぜ支援学校で実技講習「クリスマスシュトーレン作り」を行い、各学校の実践報告などを行った。また、2回目は Zoom 開催を行い、タブレットを使った家庭科教材紹介（食物教育）や、今後の部会の進め方についての提案を行った。

(10) 自立活動代表者部会

本年度は、第1回目を8月に清武せいりゅう支援学校を会場校とし、対面とオンラインを併用し部会を実施した。特別支援教育におけるICTの活用に関する講義、事前アンケートを踏まえた各学校の情報交換を行った。第2回目は12月に清武せいりゅう支援学校を会場校とし、オンラインによる部会を実施。講話「自立活動×ICTの実践」にて理論を深め、各学校の「自立活動×ICT活用実践事例」報告から情報共有を行うことができた。今後もより一層自

立活動の指導の充実へと繋がる部会運営に努めていきたい。

(11) 情報教育代表者部会

第1回の部会を9月に Google Meet によるオンライン形式で実施した。多様な会議手段の確保が狙いである。主な議題は、DropTap などのアプリの紹介や iPad を活用するにあたってのルール作りなどであった。授業における ICT 機器の利用については、保護者との共通理解と教育課程に基づいた根拠のある活用が重要であるという共通理解をもった。第2回は令和5年3月にオンライン形式で開催予定である。

IX 宮崎県特別支援教育研究連合 規約・細則

宮崎県特別支援教育研究連合規約

第一章 名称

第 1 条 本会は、宮崎県特別支援教育研究連合と称し、事務局を会長指定の学校におく。

第二章 目的及び事業

第 2 条 本会は、特別支援学校と特別支援学級並びに通級指導教室（以下「特別支援学級等」という）を設置する小学校・中学校相互の連携を緊密にするとともに、特別支援教育に関する実践研究・調査及び特別支援教育の充実・振興を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 1 エリア部会及び障がい種別教育研究部会等の設置による実践研究・調査
- 2 県内各地域、学校における研究の推進
- 3 研究発表会、教育講演会等の開催
- 4 関係機関、団体との連絡提携
- 5 ホームページによる研究報告、情報提供
- 6 その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業

第三章 組織・構成

第 4 条 本会は、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会及び宮崎県特別支援学校教育研究会の連合体として組織し、会員は該当加入校の所属職員及び本会の趣旨に賛同する者をもって会員とする。なお、本会の加入は学校単位とする。

第 5 条 第 3 条の目的を達成するために、エリア部会及び障がい種別教育研究部会（以下「部会」という）等の必要な部会を設けることができる。

第四章 役員

第 6 条 本会に次の役員をおく。

- 1 会長 1名
- 2 副会長 3名
- 3 理事 16名
- 4 監事 2名
- 5 部会長 部会数（エリア部会・障がい種別教育研究部会）
- 6 代議員 各部会から代表を選出。

第 7 条 会長及び副会長は理事会において互選し代議員会の承認を受ける。

第 8 条 理事は、特別支援学校及び特別支援学級等設置校の推薦により選出する。

第 9 条 監事は、特別支援学校及び特別支援学級等設置校の推薦により 2 名選出する。

第 10 条 部会長は、各部会から 1 名を選出する。

第 11 条 代議員は、各部会の推薦により選出する。

第 12 条 役員任期は 1 年とする。ただし、再任は妨げない。

第 13 条 任期中に欠員を生じたときは、理事会においてその補充を行う。なお、その任期は前任者の残任期間とする。

第 14 条 役員任期は次のとおりとする。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 2 副会長は、会長を補佐し会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、会長・副会長を補佐し、会務を処理する。
- 4 監事は、本会の経理を監査する。
- 5 部会長は、部会を代表し、部会を総括する。
- 6 代議員は、本会の重要事項を審議する。

第五章 会 議

第15条 本会の総会は代議員会をもって当てる。

第16条 代議員会は、第6条に掲げる役員と事務局員をもって構成する。

第17条 本会は、代議員会、理事会、その他の会議を開催する。

第18条 代議員会は、本会の最高議決機関であり、事業報告・決算の承認、事業計画・予算の審議及び承認、役員承認並びに規約の改正、その他重要事項を審議・決定する。

第19条 代議員会は、定期代議員会及び臨時代議員会とする。

1 定期代議員会は、年1回開催する。

2 会長が必要と認めたとき、または、代議員会の3分の2以上の要求があったときには臨時代議員会を開くことができる。

第20条 代議員会は、役員過半数をもって成立し、決議は出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

第21条 理事会は、必要に応じて開催し、会長がこれを招集する。

第22条 理事会は、次のような会務を処理する。

1 本会の重要事業を企画審議する。

2 代議員会に提出する報告書の議案を作成する。

3 その他事業の推進に関すること。

第六章 経 理

第23条 本会の経費は負担金、補助金及びその他の収入によって支弁する。

第24条 負担金については、別に定める規定により納入する。

第25条 本会会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

第七章 規約の改正・細則

第26条 この規約は、代議員会の議決を経なければ改正することはできない。

第27条 本会の運営に関しては、別に細則を定める。

第28条 本規約は、平成17年4月1日より実施する。

付 則

- 本規約は平成7年2月28日より実施する。
- 平成16年7月27日改正。
- 本規約は平成17年4月1日より実施する。
- 平成17年7月26日改正（名称変更／宮崎県特殊教育研究連盟より宮崎県特別支援教育研究連合に改称）、実施。
- 平成18年7月31日改正（文言の変更／①特殊教育より特別支援教育に、特殊学級より特別支援学級に②宮崎県小・中学校特殊教育研究会より宮崎県小・中学校特別支援教育研究会に改称を受けて）、実施。
- 平成19年7月25日改正（文言の変更／①宮崎県盲・聾・養護学校教育研究会より宮崎県特別支援学校教育研究会に②盲・ろう・養護学校より特別支援学校に学校教育法等の一部改正を受けて）、実施。
- 平成23年3月1日改正（文言の変更／障害種別研究部会の表記を「障がい種別研究部会」に改称）、実施。
- 平成24年7月25日改正（条文の見直し及び条文の順序の変更）、実施。
- 平成26年6月19日改正（内容の変更／研究収録、機関誌の発行よりホームページによる研究報告、情報提供）実施
- 令和3年6月22日改正（名称変更／ブロック部会よりエリア部会に改称）
- 本規約は令和3年6月22日より実施する。

宮崎県特別支援教育研究連合 細則

- 第 1 条 (総 則) 本細則は、宮崎県特別支援教育研究連合規約第 27 条に基づいて定めるものである。
本細則は、理事会の承認を得て発効する。
- 第 2 条 (事務局) 規約第 1 条に定めた事務局については、本連合事務局とエリア部会事務局、障がい種別研究部会事務局を置く。
○ 本連合事務局については必要に応じて事務局校以外の小学校、中学校、特別支援学校に協力を要請する。
- 第 3 条 (部会) 規約第 5 条に設けた必要なエリア部会並びに障がい種別教育研究部会は次のとおりとする。ただし、代議員会の議決により改変することができる。
- 1 エリア部会
宮崎・東諸県エリア部会、日南・串間エリア部会、都城・北諸県エリア部会、小林・西諸県エリア部会、西都・児湯エリア部会、延岡・西臼杵エリア部会、日向・東臼杵エリア部会
 - 2 障がい種別教育研究部会
視覚障がい教育研究部会、聴覚障がい教育研究部会、知的障がい教育研究部会、肢体不自由教育研究部会、病弱教育研究部会、情緒障がい教育研究部会、難聴・言語障がい教育研究部会
- 第 4 条 (代議員) 規約第 10 条に定める代議員については、各エリア部会・障がい種別教育研究部会から各 1 名選出するものとするが、延岡・西臼杵エリア部会は延岡地区代表と西臼杵地区代表をそれぞれ設け 2 名選出するものとする。
- 第 5 条 (会議) 規約第五章における会議は、原則として次のものとし、本会を円滑に運営するためのものとする。
- 1 代議員会 (総会)
会長、副会長、理事、監事、エリア部会長、障がい種別教育研究部会長、代議員、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
 - 2 理事会
会長、副会長、理事、エリア部会長、障がい種別教育研究部会長、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
 - 3 事務局連絡会
会長、副会長、エリア部会事務局、障がい種別教育研究部会事務局、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
 - 4 事務局会
会長、副会長、宮崎県小・中学校特別支援教育研究会事務局長、宮崎県特別支援学校教育研究会事務局長、本連合事務局
 - 5 研究大会
会員対象、関連する機関の参加も可とする。
- 第 6 条 (負担金) 規約第 24 条に基づく負担金については、次のとおりとし、代議員会の承認をもって決定する。
- 1 本会に所属する学級数で徴収する。
 - 2 負担金額 (別表 1)

- 第 7 条（監査） 監査は、毎年 1 回決算期に行う。監事は、帳簿、証拠書類、現金等の監査を行い、理事会に報告しなければならない。
- 第 8 条（積立金） 積立金は、宮崎県特別支援教育研究連合会計予算の一部または寄付金等をもってあてる。

付 則

- 本細則は、平成 17 年 4 月 1 日より実施する。
- 令和元年 6 月 20 日改正、（追記／基金）、実施。
- 本細則の改廃は、理事会の審議により行う。
- 令和 3 年 6 月 22 日改正
 - 部会名を「ブロック部会」から「エリア部会」に改称。宮崎県教育委員会が進める「エリアサポート体制」に準じ地域構成を変更した。「都北・西諸県ブロック部会」を分け、「都城・北諸県エリア部会」「小林・西諸県エリア部会」を追加。
 - 障がい種研究部会「難聴・言語障がい教育研究部会」から、「聴覚障がい教育研究部会」が分かれ編成される。
- 本細則は令和 3 年 6 月 22 日より実施する。

別表 1 負担金について

表：宮崎県特別支援教育研究連合負担金

	特別支援学校	小・中学校
負担金	1 学級 800 円	1 学級 500 円

おわりに

会員みなさまのおかげをもちまして、宮崎県特別支援教育研究連合「会誌第28号」を作成することができました。

会誌には各部会、あるいは研究大会等の各分野の情報が集約されております。毎日奮闘されている先生方のお役に立つことができれば幸いです。

寄稿にあたりましては、各部会長の先生方をはじめとして、多くの先生方に御協力をいただきました。御尽力により「会誌第28号」が完成できましたことに対し、厚く御礼を申し上げます。

会誌	「第28号」
発行日	令和5年2月20日
発行人	宮崎県特別支援教育研究連合
	会長 酒井 裕市
発行所	宮崎県特別支援教育研究連合 事務局 宮崎県立清武せいりゅう支援学校